氏　名印

戶長　氏　名印

郡長宛

賣藥請賣約定書　三通ヲ作リ一通ハ願書ニ添ヘ一通ハ營業者一通ハ請賣者ニ留メ置クヘシ

一方名
一方名
一方名
右何某ノ官許ヲ得タル賣藥ニシテ今般何某請賣可致示談相整候ニ付請賣者ニ於テ請賣鑑札ヲ願請ケ營業者ノ調製シタル賣藥ヲ取次販賣致スヘシ然ル上ハ營業者鑑札免許期限內ハ總テ賣藥ニ關スル御規則及ヒ御達ノ趣旨ヲ確守シ不正ノ所業致ス間敷候依テ約定書如件

府縣國郡區町村番地族籍
賣藥營業人　氏　名印
郡町村番地族籍
賣藥請賣人　氏　名印

年　月　日

第三號　行商鑑札願書式　用紙同上二通

賣藥行商鑑札願

何年何月免許
一方名

一方名
何年何月免許
一方名

但營業者異ナルトキハ第二號書式ノ但書ニ傚フヘシ最モ營業者ノ行商願書ニハ右ノ署名ヲ要セス

府縣國郡區町村番地族籍
右營業人　氏　名

右兼テ免許ヲ得タル賣藥ニ候處今般行商仕度候間別紙賣子幾名（自ラ行商ヲ爲スモノハ別紙賣子幾名ノ六字ヲ省ク）行商鑑札御下渡被下度此段奉願候也

郡町村番地族籍
營業人或ハ請賣人　氏　名印

年　月　日

衛生委員　氏　名印

戶長　氏　名印

郡長宛

別紙

賣子人名書

郡町村番地族籍

第四號　賣藥改正願書式　　用紙同上三通

賣藥改正願

同　同　氏　各

何年何月御檢査濟

一方名

以下第一號書式ノ通

右ノ內改正

改正ノ廉ヲ詳記スヘシ

右之通今般改正仕度御差支無之候ハヽ鑑札御書換被下度此段奉願候也

郡町村番地族籍
營業人　氏　名

年　月　日

右
衛生委員　氏　名　印

戸長　氏　名　印

縣令　宛

第五號　賣藥營業鑑札讓渡願書式　　用紙同上三通

賣藥營業鑑札讓渡願

一方名

以下第一號書式ノ通

但賣藥數種アルトキハ此例ニ依テ列記スヘシ

右ハ何年月御檢査濟鑑札御下渡營業仕居候處今般何某ヘ示談ノ上讓渡申度依テ鑑札御書換被下度此段奉願候也

府縣國郡區町村番地族籍
讓渡人　氏　名　印

郡町村番地族籍
讓請人　氏　名　印

讓渡人住所衛生委員　氏　名　印

同戸長　氏　名　印

讓請人住所衛生委員　氏　名　印

同戸長　氏　名　印

年　月　日

縣令　宛

第六號　請賣(行商)人名屆書式　用紙同上二通

(請賣者廢業セシトキハ行商人名ヲ屆出ヘシ)

賣藥(方名改正 譲渡 廢業)ニ付請賣(行商)人名書

府縣國郡區町村番地　氏　名

一何藥請賣(行商)人

(請賣行商人數名アルトキハ列記スヘシ)

右之外請賣行商共無之候也

年　月　日

郡町村　氏　名　印

縣令宛

(請賣行商共ナキトキハ其旨屆出ヘシ)

第七號　賣藥鑑札譲渡屆　用紙同上二通

何年月日免許

第何號

一方名

(數方アルトキハ列記スヘシ)

右之賣藥鑑札今般府縣族籍何某ヘ示談ノ譲渡候此段御屆申上候也

郡町村番地

年　月　日

元營業人　氏　名　印

衛生委員　氏　名　印

戸長　氏　名　印

縣令宛

第八號　用紙同上三通郡長宛ハ二通

賣藥營業(請賣行商)鑑札遺失(或ハ何々)ニ付御書換願

一方名

郡町村番地族籍

營業人　氏　名

又ハ

府縣國郡區町村番地族籍

賣藥營業人　氏　名

又ハ

郡町村番地族籍

右請賣人　氏　名

郡町村番地

何某賣子

族籍

右ハ何年月御下渡相成候賣藥營業（請賣行商）鑑札何月日何々ノ事故ニ毀失（遺失）仕候間御書換被下度此段奉願候也

年　月　日

郡町村番地族籍
願人　氏　名　印
衛生委員　氏　名　印
戸長　氏　名　印

縣令宛　（請賣行商鑑札ハ郡長宛）

第九號　相續或ハ改姓名轉居等鑑札書換願書式　用紙同上三通郡長宛ハ二通

賣藥營業（請賣行商）鑑札書換願

何年何月日免許
第何號
一方名（數方アルキハ列記スヘシ）
（他府縣ヨリ移轉ノ營業者ハ裁量以下第一號書式ノ通）

右今般何々（事故）候ニ付鑑札御書換被下度此段奉願候也

年　月　日

郡町村番地族籍
氏　名　印

衛生委員　氏　名　印
（營業相續ハ讓渡人存在ナレハ相續人ト連署スヘシ）
戸長　氏　名　印

縣令宛　（請賣行商ハ郡長宛）

第十號　賣藥營業鑑札滿期書換願書式　用紙同上三通

賣藥營業鑑札滿期書換願

何年月日免許
第何號
一方名
以下第一號書式ノ通
（數方アルキハ此例ニ依リ列記スヘシ）

右ハ來ル何月滿期ニ付猶引續營業仕度候間鑑札御書換被下度此段奉願候也

年　月　日

郡町村番地族籍
氏　名　印
衛生委員　氏　名　印
戸長

第十一號

縣令宛

看板雛形

木材適宜寸法長三尺巾七寸五分

免
賣藥營業
許

免
賣藥請賣業
許

氏名印

○甲第百十三號

十四年十二月乙第八十一號布達郡醫職務取扱手續第八條施療救藥ノ儀ハ當分施行セス此旨布達候事

明治十五年八月十四日

長野縣令 大野誠

○甲第六十六號

飲食物及玩弄品着色料販賣規則別紙之通相定來ル十七年一月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

長野縣令大野誠代理

（十七年七月十一日甲第六十三號ヲ以テ本文ノ通改正）

明治十六年十一月十二日

長野縣大書記官 鳥山重信

飲食物及玩弄品着色料販賣規則

第一條 飲食物及玩弄品小兒ノ手遊ニ供スルモノ各種ノ着色料繪具染料ハ無害ノ品ニアラサレハ供用スルヲ得ス

第二條 飲食物及玩弄品ニ用ユル着色料ハ左ニ列記スル品種ニ限ルヘシ

第三條 左ニ列記スル品類ノ外從來慣用並ニ新規舶來等他ノ色質ヲ使用セント欲スルトキハ其品名成分製法產地等知リ得ヘキ丈ケ及賣主ノ姓名等ヲ詳記シ現品相添ヘ願出ツヘシ

赤色ノ部

(一)辨柄ベンガラ一名鐵丹卽第二酸化鐵 (二)朱土につち丹土 (三)麒麟血一名血竭 (四)猩圓脂猩圓紙。胡臙脂。紅臙脂〇棠郊或ハ「コシニール」ヲ以テ製スルモノ (五)日本紅臙脂(かたべに)細工べに)笹紅。小町紅等ノ類ニテ紅花ヲ以テ製スルモノ (六)茜草あかね (七)蘇防スハウ蘇木又赤木 (八)赤蘇木カンペセ木又ログウード (九)赤蘇木エキスログウードエキス

黃色ノ部

(一)黃土山黃土 (二)洎芙藍サフラン又雜服閘〇淡名番紅花ノ雌蕊ト花柱トナリ「サフラニン」卽「サフロール」ト異ナリ (三)ずみ梻皮〇棠梨ノ皮 (四)煉ずみ一名煎ずみシブみ同上ノ皮ヲ以テ製スルモノ (五)きなこ(紗豆粉ト異ナリ)又ウコン「クルクマ」ト云鬱金ノ〇鬱金砂卽黃粉ハ毒アリ誤ルヘカラス (六)山梔子くちなし〇山梔子ノ實 (七)黃栢きはだ。黃蘗〇檗木ノ皮ナリ (八)きなこ紗豆粉ナリ

青色ノ部

(一)岩那青イハグンジヤウ一名瑠璃那青又白青。英名ウルトマリーンスルモノ (二)日本藍藍紙(花田紙。千草紙)藍玉。藍蠟ノ類ニテ藍葉ヲ以テ製スルモノ (三)青苔「ヲツクムース」又「リトモス」ト云フ〇海藻科ノ植物ヨリ製

綠色ノ部

(一)綠土 (二)綠色ノ那青硫酸ナトリユム。珪酸礬土ヨリ成ルモノ (三)青粉アヲコ野菜ノ葉ヲ以テ製スルモノ (四)挽茶末茶〇茶葉粉ナリ (五)艾葉よもぎ。もちくさ

十七年七月十一日甲第六十三號ヲ以テ但書追加

紫色ノ部
(一)紫粉 はなごけ一名紫花又石蕊○「リトモスノ一種○紫粉俗ニ唐紫ト異ナリ (二)紫根 しこんらきれむ (三)紫 ムラサキ 蘇木ノ煎汁ニごふんヲ和シ製スルモノ

樺色及茶色ノ部
(一)蒲黄 がまばな○蒲ノ花粉ナリ○蒲粉一名桃粉又樺粉ト異ナリ (二)桂枝 桂皮末

褐色及鼠色ノ部
(一)砥ノ粉 (二)地ノ粉 (三)無名異 (四)鏽色粉 (五)赤石脂 いしのやに (六)代赭石 にしのおかつち又血石 (七)蕨粉 (八)阿仙薬 又阿煎薬○「サルボーゴノ粉 (九)鼠 チツダマ掘リ墨○鼠粉即玉銀鼠粉ト異ナリ

白色ノ部
(一)白土 一名白粘土 陶土即硅酸礬土○唐土即鉛白ト異ナリ (二)潔白粉 (三)ごふん 胡粉即炭酸石灰○鉛白即胡粉又官粉ト異ナリ (四)角粉 (五)石膏末 ギブス末 (六)滑石 タルク

黒色ノ部
(一)玉墨 (二)削リ墨 (三)煤土 (四)黒石脂 くろつち (五)油烟 油煙 (六)松煙 灰墨

金色及銀色ノ部
(一)金色及銀色ノ雲母 きら又きらゝ 英名マイカ (二)金箔 眞物ナリ (三)銀箔 眞物ナリ

第四條 着色料ヲ販賣セントスルモノハ縣廳ヘ出願免許鑑札ヲ受クヘシ
但支店ニ於テ販賣セントスル者ハ願書ヘ其旨ヲ明記シ該支店主管者ヨリ願出ツヘシ

第五條 免許鑑札ヲ受タル者ハ着色料賣捌所ト大書シタル招牌ヲ店頭ニ掲クヘシ

第六條 着色料ヲ購求スル者アルトキハ其仕用ノ區別(飲食物玩弄品其他ノ物品)ヲ尋問シ誤用ナカラシムヘシ

第七條 着色料ヲ施ス飲食物及玩弄品ヲ製造スル者ハ必ス第五條ニ掲クル賣捌所ニ就テ購求スヘシ

十八年七月四日甲第八十二號ヲ以テ本文ノ通改正

第八條 本則第三條及第七條ニ違背シ又ハ無鑑札ニテ着色料ヲ販賣シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニ據テ處分ス

○甲第六十八號
醫師六種ノ傳染病ヲ診斷施療スルトキハ發病治癒死亡トモ左ノ書式ニ照準其都度速ニ患者所在ノ衛生委員ヘ通知スヘシ

明治十六年十一月十二日
長野縣令大野誠代理
長野縣大書記官 鳥山重信

發病書式

何郡何町村何番地
族職業
氏名
年齢

一病名(痘瘡患者ハ未種痘初痘種再三種痘等記スヘシ)
一發病何月何日何時
一診斷何月何日何時
右及通知候也

年月日
何郡何町村
醫師 氏名 印

何郡何町村

衛生委員御中

轉歸書式

何郡何町村何番地

族職業

氏　　名

年齢

一病名

一發病何月何日何時

一治癒何月何日何時

一死亡何月何日何時

右及通知候也

何郡何町村

醫師　氏　　名　印

年月日

何郡何町村

衛生委員御中

○甲第七十一號

公私立病院設立手續別紙之通相定候條此旨相違候事

但現在設立ノモノニシテ此手續ニ牴觸スルモノハ此際更ニ出願スヘシ

長野縣令大野誠代理

明治十六年十一月十二日

長野縣大書記官　鳥山重信

公私立病院設立手續

（十七年七月一日甲第六十五號ヲ以テ本文ノ通改正）

第一條　公立病院トハ協議費ヲ以テ設立スルモノ及ヒ地方税若クハ有志寄附ノ金穀ヲ以テ協議費ノ幾分ヲ補助スルモノヲ云フ

第二條　私立病院トハ一人或ハ幾人ノ私財ヲ以テ設立スルモノヲ云フ

第三條　公私立病院ハ患者ヲ入院セシムルノ目的ヲ以テ設立スルモノトス

第四條　公立病院ヲ設立セントスル片ハ第一號書式私立病院ヲ設立セントスル片ハ第二號書式ニ倣ヒ絵圖面相添ヘ所轄郡役所ヲ經由シ縣廳ヘ出願スヘシ

第五條　公私立病院職員進退及給料ノ増減等ハ其時々衛生課ヘ報告スヘシ

第六條　公立病院ハ毎會計年度收支豫算（其年五月三十日限リ）及ヒ決算ハ（其年七月三十日限リ）衛生課ヘ報告スヘシ

第七條　公私立病院都合ニ因リ閉院スルトキハ其旨屆出ツヘシ

第八條　分支院ヲ置ク片モ亦此手續ニ準據スヘシ

第一號書式

公立病院設立願

一病院位置

郡町村番地

一名稱

公立某病院

一建坪數

何坪

一病室坪數

何坪、

一聯合町村

戸數　何戸

人口　何口

一院則

職員章程及患者診察ノ手續入院料藥價診察料差等ノ類

一院長及藥局長以下職員履歷

一院長及藥局長以下職員給料

每一人一ヶ月一ヶ年　金何圓

一病院費收入豫算金ノ性質

金何圓　何町村協議費

金何圓　雜收入

金何圓　寄附金

一病院費支出豫算

金何圓　俸給幷諸雇給等

但一ヶ月金何圓

金何圓　書籍器械藥品等入費

但一ヶ月金何圓

金何圓　營繕入費幷諸雜費

但一ヶ月金何圓

通計金何圓

但一ヶ月金何圓

右之通今般郡內或ハ何町村協議ノ上設立仕度此段奉願候也

年　月　日

某郡町村總代

衛生委員

氏　名　印

同

戸長　氏　名　印

同

縣令宛

前書之通相違無之ニ付奥印候也

年　月　日

某郡長　氏　名　印

第二號書式

私立病院設立願

一病院位置

郡町村番地

一名稱

私立某病院

一建坪數　何坪

一病室坪數　何坪

一院則

一院長及藥局長以下職員履歷

以上二項公立病院ノ例準ニスヘシ

一院長及藥局長以下職員給料

每一人一ヶ月一ヶ年金何圓

一人或ハ數人ノ醫師結社設立ニテ給料ヲ不定モノハ其旨記載スヘシ

一病院費

收支豫算共公立病院ノ例ニ準スヘシ

右之通設立仕度此段奉願候也

年　月　日

郡町村番地

醫師或ハ何業　氏　名　印

（結社人アルトキハ）

結社人　氏　名　印

衛生委員　氏　名　印

戶　長　氏　名　印

前書之通相違無之ニ付奥印候也

年　月　日　某郡長　氏　名　印

縣令　宛

○甲第七十二號

中毒患者屆手續別紙之通相定候條此旨布達候事

明治十六年十一月十二日　長野縣令大野誠代理

長野縣大書記官　鳥山重信

中毒患者屆手續

第一條　醫師ニ於テ飲食物ノ中毒又ハ藥品ノ誤用ニ罹ル患者ヲ診察施療シタルトキハ第一號書式其死後檢案ニ係ルモノハ第二號書式ニ據リ屆書ヲ作リ毒物現品相添ヘ速ニ患者所在ノ衛生委員ヘ差出スヘシ

但毒物現品ナクシテ他ニ毒物含有ノ見込アルモノアル時ハ之ヲ添付スヘシ

第二條　毒物現品及ヒ毒物含有ノ見込アルモノ添付スルニハ淸潔ナル硝子製又ハ陶製ノ器ニ容レ固封シ且ツ品質ニ依リ變敗セサル爲メ適宜ノ防腐法ヲ施スヘシ

第三條　中毒患者治癒又ハ死亡スルトキハ第三號書式治療中慢性症ニ歸スルモノハ第四號書式ニ傚ヒ醫師ヨリ屆書ヲ衛生委員ヘ差出スヘシ

第四條　飲食物ノ中毒又ハ薬品ノ誤用ニ罹リ醫師ノ診察ヲ受サルモ其中毒ノ著シキモノハ速ニ衛生委員ヘ届出ヘシ

第五條　衛生委員前條々ノ届書ヲ受ケタル片ハ戸長ト連署シ所轄郡役所ヲ經由縣廳ヘ差出スヘシ

但第四條ノ届出ヲ受ケタル片ハ第五號書式ノ届書ヲ作リ本文ノ手續ヲナスヘシ

第一號書式

中毒患者御届

郡町村番地居住寄留族職業

氏名

年齢

右之者何月何日午前後第何時何所ニ於テ何々ノ際何品（生死幾千等ヲ區別スヘシ）何程飲（食）用（何々ノ病症ニ付何薬何程服用）候處凡ソ何時間ノ後云々（其苦痛煩悶等發症ノ狀ヲ詳記スヘシ）ノ症狀ヲ現ハシ何々中毒症ト診斷致候ニ付（毒物現品相添）此段御届仕候也

年月日

何郡町村醫師　氏名印

仝

衛生委員　氏名印

戸長　氏名印

縣令宛

第二號書式

中毒患者死体検案御届

肩書前式ニ同シ

氏名印

年齢

右之者何月何日何々飲（食）用候處凡ソ何時間ノ後云々（其苦痛煩悶等概狀ヲ詳記スヘシ）症狀ヲ現ハシ死亡候處何々中毒症ト検案致候依テ（毒物現品相添）此段御届仕候也

郡町村醫師氏名以下前式ニ同シ

第三號書式

中毒患者治癒（死亡）御届

肩書前式ニ同シ

氏名

年齢

右之者去ル何月何日何々中毒症ニ罹リ候義御届出置候處爾後云々（發症後治癒又ハ死亡ニ至ル迄經過症狀ヲ詳記スヘシ）ノ症狀ヲ發シ何月何日治癒（死亡）候ニ付此段御届仕候也

郡町村醫師以下前式ニ同シ

第四號書式

中毒患者慢性御届

肩書前式ニ同シ

氏　名

年齢

右之者何月何日何々中毒症ニ罹リ候ニ付御届仕置候處爾後云々（發症後經過ノ症狀ヲ詳記ス）ノ症狀ヲ發シ慢性症ニ歸シ候間此段御届仕候也

郡町村醫師氏名以下前式ニ同シ

第五號書式

中毒患者御届

郡町村番地（居住寄留）

族職業

氏　名

年齢

右之者何月何日何時何所ニ於テ何々ノ際何品（生煮燒干等ヲ詳記スヘシ）何程飲（食）用シ（或ハ何々ノ病症ニ付何藥何程服用）候處凡ソ何時間ノ後云々（其發症ノ景狀ヲ詳記スヘシ）ノ症狀ヲ現ハシ全ク中毒症ト認メ候旨届出候ニ付此段及御届候也

年　月　日

何郡何町村

衛生委員　氏　名　印

戸　長　氏　名　印

縣令宛

〔十七年七月一日甲第六十六號ヲ以テ第一條本文ノ通改正〕

〔廿年縣令第百十五號ニヨリ消滅〕

○甲第三十一號

産婆營業規則別紙之通相定候條此旨布達候事

明治十七年四月十四日

長野縣令大野誠代理

長野縣大書記官　鳥山重信

産婆營業規則

第一條　産婆ハ内務省免許又ハ本縣ノ免狀及鑑札ヲ受タル者ニアラサレハ管内ニ於テ營業スルヲ得ス

第二條　産婆ハ藥劑ヲ投シ若クハ藥劑ヲ指圖スルヿヲ許サス

産婦ノ分娩時ニ臨ミ若シ難産ト認ムルトキハ醫師ノ指圖ニアラサレハ手術ヲ施スヿヲ許サス

但近隣ニ醫師ナキ土地ニシテ實際止ヲ得サル場合ニ於テ家人ノ承諾ヲ得テ施術スルハ此限リニアラス

第三條　産婆若シ妊娠四ヶ月以上ノ死胎分娩者ヲ取扱タルトキハ甲第六十七號布達死亡届規則ニ據リ届書ヲ作リ之ヲ其家人ニ付與スヘシ

第四條　産婆營業志願ノ者ニシテ該術試驗ヲ受ケント欲スル者ハ修學履歴書相添所轄郡役所ヲ經由出願スヘシ

試驗ヲ請フモノハ滿二十年以上ノ女子ニ限ル

試驗合格ノ者ヘハ免狀ヲ付與ス若シ不合格者ハ六ヶ月ヲ經サレハ再ヒ試驗ヲ出願スルヲ得ス

但公私學校ニ於テ卒業及講習濟ノ者其證書ヲ添テ出願スルトキハ試驗ヲ要セス免狀付與スヘシ

第五條　試驗節目及試驗手續左ノ如シ

一試驗節目

骨盤ノ構造　妊娠ノ鑑識法　妊娠ノ經過　妊娠中ノ攝生法　胎兒ノ位置及其鑑別

順産　不順産　生兒ノ處置　産蓐ノ攝生法

以上大意

二試驗ハ縣立醫學校附屬病院ニ於テシ院長副長ノ內ヲ以テ臨時試驗委員ヲ命シ衛生課員一名臨席施行スルモノトス

三試驗問題ハ一節ニ付二三問口答セシム

書式

産婆營業試驗願　　正副二通

某　　儀

今般産婆營業仕度候間御試驗ノ上免狀御下付相成度履歷書相添此段奉願候也

何郡町村番地（寄留者ナレハ本籍モ記スヘシ）

身分

年　月　日

願人　氏　　名印

年　　齡

衛生委員　氏　　名印

縣令宛

戸長　氏　　名印

第六條　産婆營業者ノ乏シキ地方ニシテ自然其技術ニ習熟セシ者左ノ書式ニ倣ヒ履歷書相添所轄郡役所ヲ經由出願スルトキハ詮議ノ上當分試驗ヲ要セス鑑札付與スルコトアルヘシ

書式

産婆營業願　　正副二通

某　　儀

今般産婆營業仕度候間鑑札御下付相成度履歷書相添此段奉願候也

何郡町村番地（寄留者ナレハ本籍モ記スヘシ）

身分

年　月　日

願人　氏　　名印

年　　齡

衛生委員　氏　　名印

戸長　氏　　名印

縣令宛

第七條　水火盜難ノ事故ニ由リ免狀又ハ鑑札ヲ毀損シ又ハ遺失スルトキハ其事由ヲ詳記シ更ニ免狀ヲ請求スヘシ

第八條　管內轉居ノ節ハ其旨届出ツヘシ
他管下ヘ轉居若クハ死亡セシトキハ免狀又ハ鑑札ヲ返納スヘシ
第九條　免狀及鑑札ヲ請タル者ハ左ノ雛形ニ倣ヒ看版ヲ製シ他人ノ見易キ箇所ヘ揭クヘシ
雛形

第何號
免許産婆營業
氏名

第十條　此規則ニ悖リ營業セシ者ハ其業ヲ停止若クハ禁スルコトアルヘシ

○甲第百八號
昨十六年七月甲第四十九號布達醫業取締規則別紙之通改正ス
右布達候事
明治十七年十二月十二日　長野縣令　木梨精一郎

醫業取締規則

第一條　管內ニ於テ新タニ醫術開業セントスルモノ又ハ他府縣ヨリ轉居開業セントスル者ハ免狀寫ニ履歷書ヲ添ヘ住所ヲ明記シ開業前必ス届出ヘシ
廿年七月十九日縣令第八十八號ヲ以テ第二條本文ノ通リ改正
第二條　醫師開業地ヲ移轉シ或ハ他府縣下ニ轉居開業セントスルトキハ速ニ移住ノ地名ヲ記シ届出

明治　年　月　日　在監人患者日表　長野縣監獄署

越患者

種類別＼種別	刑事被告人 男	刑事被告人 女	囚人 男	囚人 女	懲治人 男	懲治人 女	別房留置者 男	別房留置者 女	携帯乳兒 男	携帯乳兒 女	合計 男	合計 女
傳染性病												
發育及營養病												
皮膚及筋病												
骨及關節諸病												
血行器病												
神經及聽官病												
眼科諸病												
呼吸器病												
消化器病												
泌尿及生殖病												
外襲性諸病												
外襲性變死												
中毒												
小計												

罹病者

種類別＼種別	刑事被告人 男	刑事被告人 女	囚人 男	囚人 女	懲治人 男	懲治人 女	別房留置者 男	別房留置者 女	携帯乳兒 男	携帯乳兒 女	合計 男	合計 女
傳染性病												
發育及營養病												
皮膚及筋病												
骨及關節諸病												
血行器病												
神經及聽官病												
眼科諸病												
呼吸器病												
消化器病												
泌尿及生殖病												
外襲性諸病												
外襲性變死												
中毒												
小計												

放免決行

種類別＼種別	刑事被告人 男	刑事被告人 女	囚人 男	囚人 女	懲治人 男	懲治人 女	別房留置者 男	別房留置者 女	携帯乳兒 男	携帯乳兒 女	合計 男	合計 女
傳染性病												
發育及營養病												
皮膚及筋病												
骨及關節諸病												
血行器病												
神經及聽官病												
眼科諸病												
呼吸器病												
消化器病												
泌尿及生殖病												
外襲性諸病												
外襲性變死												
中毒												
小計												

治癒者

種類別＼種別	刑事被告人 男	刑事被告人 女	囚人 男	囚人 女	懲治人 男	懲治人 女	別房留置者 男	別房留置者 女	携帯乳兒 男	携帯乳兒 女	合計 男	合計 女
傳染性病												
發育及營養病												
皮膚及筋病												
骨及關節諸病												
血行器病												
神經及聽官病												
眼科諸病												
呼吸器病												
消化器病												
泌尿及生殖病												
外襲性諸病												
外襲性變死												
中毒												
小計												

死亡者

種類別＼種別	刑事被告人 男	刑事被告人 女	囚人 男	囚人 女	懲治人 男	懲治人 女	別房留置者 男	別房留置者 女	携帯乳兒 男	携帯乳兒 女	合計 男	合計 女
傳染性病												
發育及營養病												
皮膚及筋病												
骨及關節諸病												
血行器病												
神經及聽官病												
眼科諸病												
呼吸器病												
消化器病												
泌尿及生殖病												
外襲性諸病												
外襲性變死												
中毒												
小計												

現在患者 / 現在患者總計

種類別＼種別	刑事被告人 男	刑事被告人 女	囚人 男	囚人 女	懲治人 男	懲治人 女	別房留置者 男	別房留置者 女	携帯乳兒 男	携帯乳兒 女	現在患者總計 男	現在患者總計 女
傳染性病												
發育及營養病												
皮膚及筋病												
骨及關節諸病												
血行器病												
神經及聽官病												
眼科諸病												
呼吸器病												
消化器病												
泌尿及生殖病												
外襲性諸病												
外襲性變死												
中毒												
小計												

病監入療者

種類別＼種別	刑事被告人 男	刑事被告人 女	囚人 男	囚人 女	懲治人 男	懲治人 女	別房留置者 男	別房留置者 女	携帯乳兒 男	携帯乳兒 女	合計 男	合計 女
傳染性病												
發育及營養病												
皮膚及筋病												
骨及關節諸病												
血行器病												
神經及聽官病												
眼科諸病												
呼吸器病												
消化器病												
泌尿及生殖病												
外襲性諸病												
外襲性變死												
中毒												
小計												

刑名ニ對スル細別

種類別＼種別	無期徒刑 男	無期徒刑 女	有期徒刑 男	有期徒刑 女	重懲役 男	重懲役 女	輕懲役 男	輕懲役 女	重禁錮 男	重禁錮 女	輕禁錮 男	輕禁錮 女	拘留 男	拘留 女	合計 男	合計 女	備考
傳染性病																	
發育及營養病																	
皮膚及筋病																	
骨及關節諸病																	
血行器病																	
神經及聽官病																	
眼科諸病																	
呼吸器病																	
消化器病																	
泌尿及生殖病																	
外襲性諸病																	
外襲性變死																	
中毒																	
小計																	

署長

各課所長

各課所主務

明治　年　月　在監人患者月表　長野縣監獄署

病名／役種	無職 男	無職 女	木工 男	木工 女	抄紙工 男	抄紙工 女	藁工 男	藁工 女	煉瓦工 男	煉瓦工 女	機工 男	機工 女	裁縫工 男	裁縫工 女	紡績 男	紡績 女	元結 男	元結 女	外役 男	外役 女	炊事 男	炊事 女	雜役 男	雜役 女	合計 男	合計 女
傳染性病																									
發育及營養病																									
皮膚及筋病																									
骨及關節諸病																									
血行器病																									
神經及聽官病																									
眼科諸病																									
呼吸器病																									
消化器病																									
泌尿及生殖病																									
外襲性諸病																									
外襲性變死																									
中毒																									
小計																									

病名	越患者 刑事被告人 男	越患者 刑事被告人 女	越患者 囚人 男	越患者 囚人 女	越患者 懲治人 男	越患者 懲治人 女	越患者 別房留置者 男	越患者 別房留置者 女	越患者 携帯乳兒 男	越患者 携帯乳兒 女	罹病者 刑事被告人 男	罹病者 刑事被告人 女	罹病者 囚人 男	罹病者 囚人 女	罹病者 懲治人 男	罹病者 懲治人 女	罹病者 別房留置者 男	罹病者 別房留置者 女	罹病者 携帯乳兒 男	罹病者 携帯乳兒 女
傳染性病																			
發育及營養病																			
皮膚及筋病																			
骨及關節諸病																			
血行器病																			
神經及聽官病																			
眼科諸病																			
呼吸器病																			
消化器病																			
泌尿及生殖病																			
外襲性諸病																			
外襲性變死																			
中毒																			
小計																			

病名	治癒者 刑事被告人 男	治癒者 刑事被告人 女	治癒者 囚人 男	治癒者 囚人 女	治癒者 懲治人 男	治癒者 懲治人 女	治癒者 別房留置者 男	治癒者 別房留置者 女	治癒者 携帯乳兒 男	治癒者 携帯乳兒 女	死亡者 刑事被告人 男	死亡者 刑事被告人 女	死亡者 囚人 男	死亡者 囚人 女	死亡者 懲治人 男	死亡者 懲治人 女	死亡者 別房留置者 男	死亡者 別房留置者 女	死亡者 携帯乳兒 男	死亡者 携帯乳兒 女
傳染性病																			
發育及營養病																			
皮膚及筋病																			
骨及關節諸病																			
血行器病																			
神經及聽官病																			
眼科諸病																			
呼吸器病																			
消化器病																			
泌尿及生殖病																			
外襲性諸病																			
外襲性變死																			
中毒																			
小計																			

病名	現在患者 刑事被告人 男	現在患者 刑事被告人 女	現在患者 囚人 男	現在患者 囚人 女	現在患者 懲治人 男	現在患者 懲治人 女	現在患者 別房留置者 男	現在患者 別房留置者 女	現在患者 携帯乳兒 男	現在患者 携帯乳兒 女	現在患者總計 男	現在患者總計 女
傳染性病											
發育及營養病											
皮膚及筋病											
骨及關節諸病											
血行器病											
神經及聽官病											
眼科諸病											
呼吸器病											
消化器病											
泌尿及生殖病											
外襲性諸病											
外襲性變死											
中毒											
小計											

備考

健康者ト患者ノ比例 健 男	健康者ト患者ノ比例 健 女	健康者ト患者ノ比例 患 男	健康者ト患者ノ比例 患 女	患者百分ニ對スル死亡者 死 男	患者百分ニ對スル死亡者 死 女

署長

各課所長

各課所

主務

廿一年二月廿二日縣令第二十四號ヲ以テ第一項本文ノ通正

ヘシ

但甲郡ヨリ乙郡ニ轉居セントスルトキハ先ツ甲郡役所ヘ届出移住ノ上速ニ乙郡役所ヲ經テ届出ヘシ

第三條　醫師廢業又ハ死亡シタルトキハ醫師免許規則第十條ニ據リ（内務卿宛ノ届書ヲ添）七日以内ニ免狀ヲ返納スヘシ

免狀ヲ毀損遺失シ又ハ氏名族籍ヲ變換シタル者ハ醫師免許規則第八條ニ據リ（内務卿ヘ宛）七日以内ニ書換願出ヘシ

第四條　醫師ハ豫メ處方錄ヲ置キ其治療若クハ診斷シタル患者ノ住所身分職業氏名年齡既未結婚ノ別病名處法治癒死亡及ヒ廢藥等ヲ明記シ掛リ官吏ノ臨時點檢ニ供スヘシ

第五條　治療患者ニ藥劑ヲ與フルトキハ其容器又ハ包紙ニ患者ノ氏名藥劑ノ用法及自己ノ氏名ヲ記載捺印シ内服藥ト外用トハ尤モ見易キ樣區別ヲ設ケ記載スヘシ

患者ニ處方書ヲ與フルトキハ其住所氏名年齡藥劑ノ分量用法及年月日自己ノ住所氏名ヲ記シ之ニ捺印スヘシ

第六條　出張所ヲ設ントスル者ハ其場所及名稱出診ノ定日等ヲ詳記シ届出ヘシ但場所定日等ヲ變更シ又ハ休廢スルトキハ其旨速ニ届出ヘシ

出張所ヲ設ケントスルモノ他府縣下開業ノ醫師ナルトキハ届出ノ際免狀寫及ヒ履歷書ヲ添フヘシ

第七條　醫師ハ左ノ各項ノ事ヲ爲スヲ許サス

一　診察ヲ爲サヽル患者ニ診斷書ヲ與ヘ若クハ檢按ヲ爲サヽル死屍又ハ死胎ニ檢按書ヲ與フル事

二　診察ヲ爲サヽル患者ニ藥劑又ハ處方書及他ノ理由ニヨリ劇毒藥ヲ與フル事
三　死狀ヲ所持セサルモノニ代診ヲ爲サシムル事
四　藥品ノ性効ヲ辨セサルモノニ調劑ヲ專任スル事
第八條　此規則ニ掲クル願屆書ハ其町村戸長衛生委員ノ連署ヲ受ケ所轄郡役所ヲ經由スヘシ
第九條　本則第四條第五條第七條ニ違背スル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ處分ヲ受クヘシ

○甲第百十號
藥性酒檢查手續別紙之通相定ム
右布達候事
明治十七年十二月十二日　長野縣令　木梨精一郎

藥性酒檢查手續

第一條　藥性酒トハ賣藥規則外ノモノニシテ藥性分ヲ酒類ニ配伍シ販賣スルモノヲ云フ
第二條　藥性酒ヲ販賣セント欲スルモノハ其品種ノ何タルヲ問ハス此手續ニヨリ檢查ヲ受ケ許可ヲ得シモノニアラサレハ販賣スルヲ許サス
第三條　藥性酒ヲ販賣セント欲スルモノハ末項書式ニ倣ヒ所轄郡役所ヲ經由シ縣廳ヘ願出檢查ヲ受クヘシ
第四條　藥性酒ヲ販賣スルモノハ其名稱及用法服量ヲ詳記シ之ヲ容器ニ貼付スヘシ
第五條　檢查ヲ受ケスシテ私ニ配伍品ノ分量用法服量禁忌能書等ヲ改更シタルモノハ營業停止若クハ禁止スルコアルヘシ
第六條　此手續ニヨリ檢查ヲ經タルモノト雖モ一般酒類ト同ク酒造稅則ニ據ルヘキハ勿論トス

書式

藥性酒檢查願

一名稱
一配伍品　何量分　何量分　何量分
一製法
一用法服量
一功能
一禁忌
右方法ヲ以テ調製販賣仕度候間御檢查被成下度此段奉願候也

何郡何町村番地身分
願人　何　某　印
衛生委員　何　某　印
戸長　何　某　印

年　月　日

縣　令　宛

○甲第七十六號
賣藥規則外藥劑販賣取締規則別紙之通相定ム

但從來ノ營業者モ此規則ニ據リ更ニ願出ヘシ

右布達候事

明治十八年七月四日

長野縣令木梨精一郎代理
長野縣大書記官　鳥山重信

賣藥規則外藥劑販賣取締規則

第一條　賣藥規則外藥劑トハ蚤虱鼠蠅等ノ動物ヲ殺除シ或ハ飲食物ノ腐敗臭氣ヲ防止スル等人畜治病ノ目的ニ出サル者ヲ云フ

第二條　前條ノ藥劑ヲ調製販賣セント欲スル者ハ第一號書式ニ據リ所轄郡役所ヲ經由シ縣廳ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條　檢査ノ上其藥劑配伍ノ藥品取扱上失誤ヲ生シ易キ者ハ一切之ヲ許サス

第四條　免許ノ藥劑ト雖モ其藥味分量製法用法及効能ヲ改正セントスルトキハ第二號書式ニ據リ所轄郡役所ヲ經由シ縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ

但方名ヲ改正セントスルトキハ鑑札書換ヲ願出ヘシ

第五條　藥劑ヲ請賣セント欲スル者ハ營業者所持ノ免許鑑札寫相添所轄郡役所ニ願出請賣鑑札ヲ受クヘシ

第六條　藥劑營業者及請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲナサシメント欲スルトキハ所轄郡役所ニ願出行商鑑札ヲ受ケ行商ノ際ハ必ス之ヲ携帶スヘシ

第七條　諸鑑札ハ賣買貸借スルヲ許サス廢業死亡又ハ他府縣下ニ轉籍寄留スルトキハ其旨屆出鑑札ヲ返納スヘシ

但本文ノ場合ニ於テハ營業者ハ請賣行商請賣者ハ行商者ノ住所姓名ヲ詳記シ屆出ツヘシ其請賣者行商者ナキトキモ其旨屆出ヘシ

第八條　營業者廢業スルカ又ハ禁止セラルヽトキハ其請賣者及行商者共販賣ヲ許サス所持ノ鑑札ハ速ニ返納スヘシ

第九條　免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サントスルトキハ第三號書式ニ據リ鑑札書換ヲ願出ヘシ

第十條　相續人ニ於テ營業ヲ繼續セント欲スル者ハ其旨願出鑑札書換ヲ乞フヘシ

第十一條　諸鑑札ヲ遺失又ハ毀損シ若シクハ改姓名及甲郡ヨリ乙郡ヘ轉籍寄留スルトキハ其事由ヲ詳記シ鑑札書換ヲ願出ヘシ

第十二條　營業者住所姓名又ハ方名ヲ變更シ或ハ免許鑑札ヲ他人ニ讓渡タルトキハ速ニ請賣及行商者ニ通知シ請賣及行商者ハ其鑑札ノ書換ヲ願出ヘシ

第十三條　此規則第二條第四條第五條第六條第七條第八條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ處分シ尙所犯情狀ニ依リ行政ノ所分ヲ以テ其營業ヲ停止若クハ禁止スルコアルヘシ

第一號書式

賣藥規則外藥劑檢査願

一方名

藥味　分量

製法

用法

功　能

右之藥劑調製販賣仕度候間御檢査ノ上免許鑑札御下渡被成下度依テ藥劑相添此段奉願候也

何郡何町村何番地住(寄留族籍)

年　月　日　　氏　名　印

衛生委員　氏　名　印

戸長　氏　名　印

　　縣令　宛

第二號書式

賣藥規則外藥劑改正願

何年何月何日免許

第何號

一方　名

藥　味　分量

分　量

製　法

用　法

功　能

右之內改正　改正ノ廉詳記スヘシ

右之通今般改正仕度候間御許可被成下度依テ藥品相添此段奉願候也

何郡何町村何番地住(寄留)族籍

年　月　日　　氏　名　印

衛生委員　氏　名　印

戸長　氏　名　印

　　縣令　宛

第三號書式

賣藥規則外藥劑營業鑑札讓渡願

一方　名

以下第一號書式之通リ

但藥劑數種アルトキハ此例ニ依リ列記スヘシ

右ハ何年何月御檢査濟免許鑑札御下渡營業仕居候所今般示談ノ上何某ヘ讓渡申度候間鑑札御書換ヘ被成下度此段奉願候也

何郡何町村何番地住(寄留)族籍

年　月　日　　讓渡人　氏　名　印

肩書仝上

譲受人 氏 名印
譲渡人住所衛生委員 氏 名印
同戸長 氏 名印
譲受人住所衛生委員 氏 名印
同戸長 氏 名印

縣令宛

○甲第七十八號
入歯々拔口中療治整骨營業取締規則別紙之通相定ム
右布達候事

明治十八年七月四日

長野縣令木梨精一郎代理
長野縣大書記官 鳥山重信

入歯々拔口中療治整骨營業取締規則

第一條 此規則ニ隨ヒ入歯々拔口中療治整骨ノ營業ヲ爲スモノハ明治十一年本縣ニ於テ鑑札ヲ交付セシモノニ限ル
第二條 前條ノ營業ハ鑑札ヲ所持スル者ニ非サレハ一切之ヲ爲スコヲ許サス
第三條 營業ノ爲メ外出スルトキハ必ラス鑑札ヲ携帶スヘシ
第四條 該營業者ハ施術上如何ナル場合ト雖モ明治十三年第二號布告第二類第三類ニ掲クル毒劇藥ハ之ヲ使用スルヲ許サス
第五條 前條毒劇藥外ノ藥品ト雖モ内服藥トシテ患者ニ與フルコヲ許サス
第六條 氏名ヲ變換シ又ハ甲郡ヨリ乙郡ヘ轉籍寄留スルトキハ鑑札書換ヲ願出スヘシ
第七條 鑑札ヲ遺失シ又ハ毀損シタルトキハ其理由ヲ詳記シ三日以内ニ更ニ鑑札ヲ願受クヘシ
第八條 廢業死亡又ハ他管下ヘ轉籍寄留スルモノハ鑑札返納其旨屆出ヘシ
第九條 他管下ヘ轉籍寄留シ仍ホ其營業ヲ爲サントスル者ハ其事由ヲ詳記シ添翰願受クヘシ但他管下ヨリ當管内ヘ轉籍寄留スル者モ亦之ニ準スヘシ
第十條 此規則第二條第三條第四條第五條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ處分シ尚所犯情狀ニ依リ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ停止若シクハ禁止スルコアルヘシ

○甲第七十九號
入歯々拔口中療治整骨等ノ營業ヲ新規開業セントスルモノハ明治十六年太政官第三十四號布達醫術開業試驗規則ニ據リ願出成規ノ試驗ヲ受クヘシ
右布達候事

明治十七年八月四日

長野縣令木梨精一郎代理
長野縣大書記官 鳥山重信

○甲第八十號

鍼灸治營業取締規則別紙之通相定メ明治十四年本縣乙第十一號布達ヲ廢止ス

右布達候事

明治十八年七月四日

長野縣令木梨精一郎代理
長野縣大書記官　鳥山重信

鍼灸治營業取締規則

第一條　鍼治灸治ノ業ヲ營マント欲スル者ハ其履歷書及師家ノ證書ヲ添ヘ免許鑑札ヲ願受クヘシ

但從前免許鑑札ヲ得タル者ハ更ニ出願ニ及ハス

第二條　無免許ニシテ鍼治灸治ノ營業ヲ爲スヲ許サス

營業ノ爲メ外出スルトキハ必ラス鑑札ヲ携帶スヘシ

第三條　患者ニ藥方ヲ示シ又ハ藥劑ヲ與フルコトヲ許サス

第四條　熱性症炎性症其他危篤ノ病症及妊婦ニハ醫師ノ差圖ニアラサレハ施術スルヲ許サス

第五條　醫師治療中ノ患者ハ其醫師ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ施術スルヲ許サス

第六條　氏名ヲ變換シ又ハ甲郡ヨリ乙郡ヘ轉籍寄留スルトキハ鑑札書換ヲ願出ヘシ

第七條　鑑札ヲ遺失シ又ハ毀損シタルトキハ其事由ヲ詳記シ三日以內ニ更ニ鑑札ヲ願受クヘシ

第八條　廢業死亡又ハ他管下ヘ轉籍寄留スル者ハ鑑札返納其旨屆出ヘシ

第九條　此規則第二條第三條第四條第五條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ處分シ尙所犯情狀ニ據リ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

○甲第九十三號

明治十三年本縣乙第六號布達及十七年甲第六十一號布達ヲ廢止シ衛生ニ關スル事務ハ總テ戶長ニ管理セシム

右布達候事

明治十八年八月十七日

長野縣令木梨精一郎代理
長野縣大書記官　鳥山重信

○甲第七十號

明治十八年第三十四號布告ニ據リ種痘細則別紙之通相定ム

但明治十七年乙第六十二號達ハ廢止ス

右布達ス

明治十九年五月八日

長野縣令　木梨精一郎

種痘細則

第一條　種痘ハ每年春秋二季ニ施行スルモノトス

第二條　戶長ハ種痘所ノ位置並ニ每季種痘施行ノ期日ヲ豫定シ之レヲ部內ヘ報告シ其旨郡役所ヘ屆出ヘシ

第三條　戶長ハ相當ノ醫師ヲ撰定シ部內種痘ノ事ヲ擔當セシムルモノトス其人名ハ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ屆出ヘシ

但受痘者一日五十名以上アル場合ニ於テハ擔當醫ニ於テ別ニ助手ヲ指定スルヲ得

第四條　戸長ノ撰定シタル醫師ハ正當ノ故ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス
第五條　種痘期日ニ至ラハ受痘者ハ種痘所ヘ出頭シ醫師ノ接種ヲ受クヘシ
但便宜ニ依リ最寄開業醫ニ就キ種痘ヲ受クルモ妨ケナシ
第六條　受痘者ハ種痘料トシテ初種ハ金八錢再三種ハ金四錢醫師ニ納ムヘシ
但赤貧ニシテ種痘料ヲ納ムル能ハサルモノハ戸長役場ニ願出施痘券ヲ受ケ種痘料ニ代納スルヲ得
第七條　醫師（齒科整骨科ヲ除ク）ハ種痘人名簿ヲ製シ置キ種痘ヲ行ヒ若クハ天然痘患者ヲ治療シタルトキハ第一號書式ノ證書ト割印ノ上之レヲ附與スヘシ
第八條　醫師ヨリ種痘證若クハ天然痘證ヲ受ケタルトキハ一週日以內ニ戸長ノ檢印ヲ受ケ之レヲ保存スヘシ
第九條　種痘規則第四條ノ屆ヲ爲シタルモノ病氣全快又ハ事故止ミタルトキハ最寄開業醫ニ就キ直チニ接種ヲ受クヘシ
第十條
（廿一年二月十七日縣令第廿二號ヲ以テ削除）
第十一條　戸長役場ニ於テハ赤貧者施痘券ヲ願出ルトキハ事實ヲ取糺シ相違ナキニ於テハ之ヲ附與スヘシ
第十二條　醫師ハ種痘料ニ代納シタル施痘券ハ一季每ニ取纒メ戸長ニ請求現金ト交換スヘシ
第十三條　醫師ハ種痘料ヲ收入スルヲ以テ給料旅費ハ勿論一切ノ費用（種痘所借入料炭茶ノ類）ヲ支給セス
第十四條　戸長ハ第十二條ノ請求アルトキハ篤ク審査ヲ遂ケ相違ナキトキハ町村費中衛生費ヨリ支辨スヘシ

第十五條　戸長役場ニ於テハ別紙第二號書式ニ倣ヒ種痘明細表ヲ製シ每年一月三十一日限リ郡役所ヘ差出シ郡役所ニ於テハ之レニ準シ一郡表ヲ製シ二月二十八日限リ縣廳ヘ差出スヘシ

第一號書式ノ一　（用紙西ノ內四ツ切）

割印（實印ニテ人名帳ト）

證　○ ┐戸長檢印

何郡何村（町）何番地（寄留）
身分何某何男（女）（又ハ何々）
姓名
何年何ヶ月

初種（再種）（三種）
右（左）何顆種痘濟

年月日
醫師　姓名　㊞┐實印

不善感ノ者ハ種痘濟ノ文字ニ代フルニ不善感ノ文字ヲ以テスヘシ

第一號書式ノ二　（用紙仝上）

實印ニテ人名帳ト割印

證

天然痘濟

何郡何町村何番地（寄留）
身分何某何男（又ハ何女）
姓名
何年何ヶ月

年月日
醫師
姓名　印　──實印

○──戸長檢印

第二號書式

何郡何町村何ヶ町村種痘明細表　　明治何年中

區別	初種 善感	初種 不善感	初種 疾病事故ニテ種痘セサルモノ	再種 善感	再種 不善感	再種 疾病事故ニテ種痘セサルモノ	三種 善感	三種 不善感	三種 疾病事故ニテ種痘セサルモノ	合計
滿一年以內										
一年以上滿二年										
二年以上滿五年										
五年以上滿十年										
十年以上滿十五年										
十五年以上										
合計										

一種痘規則第三條ニ依リ接種セシ者ハ表中ニ算入セス表末ニ於テ其人員及感否ノ別ヲ附記スヘシ

一疾病事故ニテ種痘セサルモノヽ調ハ滿十五年以上ノモノヲ算入スヘカラス

○甲第七十一號

道路及市街掃除取締規則別紙之通相定ム

但明治十五年本縣甲第三十四號布達ハ廢止ス

右布達ス

明治十九年五月十一日

長野縣令　木梨精一郎

道路及市街掃除取締規則

第一條　道路橋梁下水ノ掃除及ヒ雪掃ハ左ノ區分ニ依リ負擔スヘシ
一宅地ノ周圍ハ借地借宅ヲ問ハス現住者若クハ管守人
一家屋兩側ニアル者ハ道路ノ中央ヲ折半シ其片側ナル者ハ全路
一空屋空地ノ周圍ハ其所有主又ハ管守若クハ借地人
　但居住遠隔ノモノハ該地近傍ニ其引受人ヲ立置クヘシ
一前項ニ掲ケサル者ハ地元町村
第二條　人家前ニ關セサル道路ハ地元町村ニ於テ負擔シ左ノ標柱ヲ建設シ其境界ヲ定ムヘシ
　　何郡何町村
　　從是東又ハ西何十間何町何村掃除丁場
第三條　道路橋梁下水ハ其負擔者ニ於テ時々掃除シ路傍又ハ軒下ニ塵芥及不潔ノ物品ヲ置クヘカラス
第四條　降雪ニ際シテハ通行ノ防害トナラサル樣負擔者ニ於テハ時々之レヲ取除クヘシ
第五條　市街ニ於テハ炎天又ハ風日ニハ時々路上ニ水ヲ灑クヘシ
　但冬季ハ水ヲ洒クヘカラス
第六條　下水等ノ汚水又ハ汚穢物ヲ洗滌シタル水ハ路上ニ洒クヘカラス
第七條　下水ハ最寄申合セ毎年兩度四月十月浚除スヘシ尤モ游泥塵芥等疏通ヲ壅塞スルトキハ臨時掃除スヘシ
第八條　下水浚ヘ掲ケノ汚泥塵芥等ヲ路傍ニ堆積又ハ道路修繕ニ用ユルヲ得ス

第九條　市街ニ於テハ共同ノ芥棄場ヲ設クヘシ
第十條　芥棄場ヲ設ケントスルトキハ人家ヲ遠隔シ飲料水ニ障害ナキ地ヲ撰ミ地種反別ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ所轄郡役所ヲ經テ當廳ヘ出願許可ヲ受クヘシ
第十一條　芥棄場ハ相當ノ外圍ヲ設クヘシ
第十二條　芥棄場ノ塵芥及不潔ノ物品等堆積シタルトキハ燒棄若クハ埋却スヘシ
　但肥料ニ充ツルモノハ此限ニアラス
第十三條　路上ニハ公衆ノ便ニ供スル爲メ町村協議ノ上便所ヲ設クヘシ
第十四條　道路ニ沿フタル私有地ニ前條ノ便所ヲ新設セントスルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出指揮ヲ受クヘシ
第十五條　便所ヲ新設セントスルトキハ飲料ノ井水河水ニ接近セサル地ヲ撰ヒ左ノ各項ニ依リ構造スヘシ
一糞尿器ハ陶製ヲ用フヘシ若シ陶製ヲ用フルヿ能ハサルトキハ厚板ヲ以テ堅固ニ之レヲ製スヘシ
一糞尿器ノ周圍ハ板又ハ石灰ヲ以テ製造シ周邊ヲ高フシ壺桶ノ緣ニ接スル所ヲ低クシ排泄物ヲシテ下流セシムルヲ要スヘシ
一日光ノ直射雨水ノ流入ヲ防ク爲メ道路ニ向ヘル三方ヲ圍ヒ且ツ屋根ヲ覆フヘシ
第十六條　路上ノ便所ハ受負人ヲ定メ時々掃除シ夏季ハ防臭藥ヲ撒布スヘシ
　但私有ニ屬スルモノモ亦同シ
第十七條　掃除受負人ノ住所氏名ハ戸長役場ヲ經由シテ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出スヘシ
第十八條　下水溝渠及便所ノ構造位置等健康ニ害アリト認ムルトキハ改造又ハ變換ヲ命スルコト

アルヘシ

第十九條　此規則第三條第四條第六條第七條第八條第十六條第十七條ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

○甲第九十二號

飮食物ニ蠅類ノ黠集スルハ不潔ナラシムルノミナラス往々傳染病毒傳播ノ媒介トナル虞アルニ付店舖ニ露陳シ或ハ行商スル飮食物ニシテ其儘食用スヘキモノニハ適宜ノ覆蓋ヲ設クヘシ右布達ス

明治十九年六月十二日　長野縣令　木梨精一郎

○縣令第二號

明治十六年七月本縣甲第五十號布達地方病患者屆出手續別紙ノ通改正ス

明治二十年一月十一日　長野縣知事　木梨精一郎

地方病患者屆出手續

第一條　地方病ノ調査ハ專ラ風土氣候習俗等ニ徵シ其病原ヲ探知シ將來豫防改良ノ方法ヲ設ルノ目的ナルヲ以テ勉メテ實數ヲ得ルヲ要ス

第二條　地方病ハ漸次各種ノ調査ヲナスヘシト雖トモ目下脚氣間歇熱ノ二病トス

第三條　醫師ニ於テ前二病ニ罹リタルモノヲ診療シタルトキハ別紙雛形ニ倣ヒ半年表ヲ作リ其翌月十日限リ所在ノ戶長役場ニ送致スヘシ戶長ハ速ニ所轄郡役所ニ差出スヘシ

但患者少數ナルトキハ表式ニ揭クル事實ヲ明瞭ニシ適宜屆書ヲ調製差出モ妨ナシ

第四條　郡役所ニ於テ前條ノ患者表ヲ受ケタルトキハ一郡取纏メ直ニ縣廳ニ進達スヘシ

患者表書式

明治何年
自一(七)月
至六(十二)月
(脚氣)(間歇熱)患者表

何郡何町村番地
醫師　何ノ誰　印

發病月日	發病地名	現住地名	職業	現業者 非業者	男女	氏名	年齡	轉歸月日
何月何日	何國何郡何町村	何郡何町村	農	現業者	男	何ノ誰	何年何ヶ月	何月何日治愈
何月何日	何國何郡何町村	何郡何町村	商	非業者	女	何ノ誰	何年何ヶ月	何月何日死亡
何月何日	何國何郡何町村	何郡何町村	農	非業者	女	何ノ誰	何年何ヶ月	未治

解釋

一　職業ハ本人ノ現業(官吏、神官、僧侶、醫師、學校敎員、生徒、農作主、農作人、大工職、人力車夫、荷車挽等ノ類)ヲ記載シ現ニ業務ヲ操ラサル家族ノ類ハ戶主ノ職業ヲ記載スヘシ

一　前期ヨリ本期内ヘ持越患者ハ各欄内朱字ヲ以テ記スヘシ

一　轉歸不分明ノモノハ該欄内ヘ未癒癈藥ト記スヘシ

一　死體檢按ニ係ル者ハ患者表蓰頭ニ檢按ノ文字ヲ記スヘシ

一 脚氣間歇熱患者表ハ各別ニ調製スヘシ

（廿年一月廿七日訓令第六十五號參照）

○縣令第十四號

下水溝厠圊芥溜改修手續左ノ通相定ム

明治二十年一月二十七日　　長野縣知事　木梨精一郎

下水溝厠圊芥溜改修手續

第一條　下水溝ノ底及周圍ハ煉瓦切石木板漆喰叩キ又ハ其他ノ材料ヲ以テ築造シ覆蓋ヲ設ケ其吐キロニ至ル迄漸次ニ勾配ヲ付シ之ヲ無害ノ地若クハ飲料水ニアサル河水ニ通シ此渠ヲ本幹トシ每戸ノ下水ハ之レニ一接續シ一切ノ汚水雨水ヲ阻滯壅塞セサル構造ニナスヘシ

但下水ノ設ケナキ戸ハ此際本文ニ準シ相設ケ下水溜ヲ除去スヘシ

第二條　厠圊尿屎器ハ陶器（釉衣ヲ有スルモノ）ヲ用フヘシ若シ陶器ヲ用フルコト能ハサルトキハ厚板ヲ以テ堅牢ナル桶ヲ造リ之ヲ地中ニ埋メ其周圍ノ表面ハ漆喰叩キ又ハ板ヲ以テ漏斗狀ニナシテ其壺若クハ桶ニ達セシメ總テ屎尿ヲシテ地中ニ滲透セシメサル構造ニナスヘシ

第三條　芥溜ハ蓋ヲ有シ塵芥ヲ掃除スルニ便ナル箱若クハ直ニ運搬スルヲ得ヘキ受ケ器ヲ設ケ總テ汚汁ヲシテ地中ニ滲透セサル設置ニナスヘシ

第四條　戸長ハ改修施行ノ期日ヲ豫定シ之ヲ部内ニ報告シ其旨郡役所並警察署又ハ分署ニ屆出ヘシ

（廿年五月七日縣令第六十七號ヲ以テ但書追加）

第五條　戸長ハ改修スヘキ町村ニ改修委員三名以上ヲ撰定セシメ改修ノ事ヲ擔當セシムルモノトス其人名ハ郡役所並警察署又ハ分署ニ屆出ヘシ

但時機ニ依リ特撰セシムルコトアルヘシ

第六條　下水溝改修ニ關スル費用本渠ハ町村費ヨリ支辨シ支渠ハ地主若クハ家主ニ於テ支辨スヘシ

第七條　厠圊及芥溜改修ニ關スル費用公衆ノ便ニ係ルモノハ町村費ヨリ支辨シ私有ニ係ルモノハ地主若クハ家主等ニ於テ支辨スヘシ

第八條　土地ノ狀況ニ依リ第一條第二條第三條ノ構造法ヲ變更セントスルトキハ其方法ヲ詳具シ伺出ヘシ

第九條　改修實地ニ着手スルトキハ掛リ官吏ヲシテ臨監セシムルコトアルヘシ

第十條　改修竣功ノ上ハ其旨戸長ヨリ郡役所並警察署又ハ分署ニ屆出ヘシ

第十一條　改修不完全ナリト認ムルトキハ仍ホ改修ヲ命スルコトアルヘシ

○縣令第百十五號

死亡死産屆出規則別紙ノ通リ相定ム

但明治十六年本縣甲第六十七號布達廢止ス

明治二十年十月十九日　　長野縣知事　木梨精一郎

死亡死産屆出規則

第一條　死亡死産（妊娠四ケ月以上）ハ本籍寄留ヲ論セス總テ此規則ニ依リ屆出ヘキモノトス

第二條　死者ノ家人（家人ナキ場合ニ於テハ親戚又ハ隣佑ノ者）ハ必ス主治ノ醫師ニ就キ死亡屆ヲ請求シ之ヲ戸長ニ差出スヘシ

第三條　頓死急病其他醫療ヲ加ヘスシテ死ニ至ルモノアルトキハ其家人（家人ナキ場合ニ於テハ親戚又ハ隣佑ノ者）ハ速ニ最

寄醫師ヲ招キ死體ノ檢按ヲ受クヘシ

第四條　醫師施療ノ患者死亡シ又ハ死體ヲ檢按セシ片ハ第一號若クハ第二號書式ノ屆書ヲ作リ之レヲ其家人（家人ナキ場合ニ於テハ親戚又ハ隣佑ノ者）ニ附與スヘシ

第五條　醫師死體檢案ノ上異狀アリト認ムル片ハ警察署又ハ分署ニ急報スヘシ

第六條　醫師治療シタル行旅病人死亡及ヒ死體ヲ檢案シ該屆書ヲ附與スヘキモノナキ場合ニ於テハ其屆書ヲ直チニ戸長ニ差出スヘシ

第七條　前條々ノ場合ニ於テ數醫立會ニ係ル片ハ主治醫ヨリ其屆書ヲ附與スヘシ尤モ時機ニ依リ數醫連署スルモ妨ケナシ

第八條　死胎分娩（妊娠四ヶ月以上）シタル片ハ必ス醫師ニ就テ其死胎ノ檢按ヲ受ケ屆書ヲ請求シ之レヲ戸長ニ差出スヘシ

第九條　醫師死胎分娩者ヲ診察施術シ又ハ檢按セシ片ハ第三號若クハ第四號書式ノ屆書ヲ其家人（家人ナキ場合ニ於テハ親戚又ハ隣佑ノ者）ニ附與スヘシ

第十條　醫師死胎檢按ノ上異狀アリト認ムル片ハ速ニ警察署又ハ分署ニ急報スヘシ

第十一條　本則第五條第十條ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

（廿年十一月十五日縣令第百廿六號ヲ以テ第十一條本文ノ通改正）

第一號書式

（廿一年十二月廿五日縣令第九十號ヲ以テ第一號以下書式中本文ノ通リ改正）

死亡屆

郡町村番地（或ハ寄留）

族籍

戸主職業

本人職業（死亡者戸主ナレハ之レヲ記セス）

又ハ戸主

氏　名

何年何月

既婚 有配偶 無配偶　未婚

病　名

死亡ノ月日時

右ハ自分施治ノ患者ニ候處死亡候ニ付此段及御屆候也

年　月　日

郡町村番地

主治醫　氏　名　印

何町村戸長氏名殿

解釋

一職業ハ各本人ノ現業（官吏、神官、僧侶、醫師、學校敎員、生徒、農、商、大工職、養蠶、裁縫、機織、人力車夫、荷車挽等ノ類）ヲ記載スヘシ

但二業以上ヲ兼ヌルモノハ其主ナル業ヲ記スヘシ以下倣之

一年齡十二年未滿ノ者ハ既婚未婚ノ別ヲ記載スルニ及ハス以下倣之

第二號書式

死體檢按屆

郡町村番地以下第壹號書式ニ倣フ

氏　名

何年何ヶ月

既婚 有配偶 無配偶　未婚

病名及ヒ死亡ノ月日時並ニ死狀ハ勿論死ニ至ル顛末ヲ知リ得ル丈ケ詳細ニ記載スヘシ右檢按候ニ付此段及御屆候也

年　月　日

郡町村番地
醫師　氏　名　印

何町村戸長氏名殿

第三號書式

死產屆

公生(私生)男(女)

郡町村番地(或ハ寄留)
何某妻或ハ何女
氏　名
何年何ヶ月

何月妊娠

何月何日死胎分娩

右及御屆候也

年　月　日

郡町村番地
醫師　氏　名　印

何町村戸長氏名殿

第四號書式

死胎檢按屆

> 二十年十二月五日縣令第百三十四號參照

公生(私生)男(女)

郡町村番地(或ハ寄留)
何某妻或ハ何女
氏　名
何年何ヶ月

何月妊娠

何月何日死胎分娩

死胎分娩ノ原因其死胎ノ形狀ヲ詳細ニ記載スヘシ

右檢按候ニ付此段及御屆候也

年　月　日

郡町村番地
醫師　氏　名　印

何町村戸長氏名殿

○縣令第百三十三號

鑛泉營業取締規則左ノ通創定シ明治二十一年二月一日ヨリ施行ス

但從前開業セルモノモ本則ニ準シ願出許可ヲ請クヘシ既ニ鑛泉ノ成分主治効能浴法等調査濟ノ分ハ其調書ノ寫ヲ添ヘ原泉差出スニ及ハス

明治二十年十二月五日

長野縣知事　木梨精一郎

鑛泉營業取締規則

第一條　鑛泉營業トハ鑛泉ノ現所若クハ採酌運搬シ又ハ樋管等ヲ以テ引致シ浴場ヲ設ケ公衆ヲ浴セシメ營業スル者ヲ云

第二條　前條ノ營業ヲナサントスル者ハ左ノ各項ヲ具シ原泉ヲ添ヘ郡役所ヲ經テ願出許可ヲ請クヘシ

一　鑛泉湧出地ノ町村字名及地種
二　發見ノ年月
三　温冷泉ノ區別及其名稱
四　湧出地ノ地形及地質
五　鑛泉湧出ノ多少泉原及浴槽中ノ温度（攝氏寒暖計チ用フヘシ）
六　浴場構造ノ方法並位置敷地建物浴槽ノ坪數近傍ノ景況及其圖面
七　火温ヲ用ユルモノハ竈構造ノ方法

第三條　前條願出ノ際鑛泉ハ左ノ各項ニ準シ差出スヘシ

一　鑛泉凡壹升トス
二　容器ハ玻璃瓶又ハ陶器ニ限ル
三　容器ハ其鑛泉ヲ以テ丁寧ニ洗條シ之ヲ泉中ニ沈メ採酌シ揮撒セサル爲メ清潔ナル「キルク」又ハ軟カナル木ヲ以テ栓塞密閉シ其栓端ト水トノ間ニ小量ノ空隙ヲ存スヘシ

第四條　既ニ許可ヲ得タル鑛泉ヲ採酌運搬シ又ハ樋管等ヲ以テ引致シ浴場ヲ開業セントスル者ハ第二條第三項第五項第六項第七項ニ準シ所有者連署ノ上郡役所ヲ經テ願出許可ヲ請クヘシ

第五條　左ノ場合ニ於テハ郡役所ヲ經テ屆出ヘシ

一　轉籍寄留改氏名代換又ハ廢業セシトキ
二　賣渡シ又ハ讓與シタルトキ（雙方及地主ノ連署チ要ス）

第六條　浴場及浴槽ノ構造ヲ變更セントスルトキハ其方法ヲ具シ郡役所ヲ經テ屆出ツヘシ

第七條　浴場ノ構造ハ凡左ノ各項ニ準スヘシ

一　浴場ハ換氣ノ便ヲ好クスヘシ
二　火温ヲ用ユルモノ火焚場ハ堅牢ニ築造シ煙出シ天井裏ハ漆喰又ハ金屬等不燃質ノ物ヲ用ユヘシ

第八條　煙出シ天井裏等ヘ每月一回以上必ス掃除スヘシ

第九條　男女混浴セシムルヲ許サス
但介抱ヲ要スルモノ及十二歳未滿ノ者ハ此限ニアラス

第十條　浴場ハ常ニ清潔ニ掃除スヘシ

第十一條　鑛泉ノ成分主治効能及浴法等ハ浴場ニ掲示スヘシ

第十二條　一鑛泉ニシテ營業者二名以上ナルトキハ管理者ヲ定メ其氏名ハ郡役所幷警察署又ハ分署ニ屆出ヘシ
但管理者ハ本則ノ責ニ任スルモノトス

第十三條　本則第二條本項第四條第五條第六條第八條第九條ニ違背シタル者第七條第二項ニ違背シ命ニ從ハサル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

○縣令第百三十四號

營業ニアラスト雖モ一町村一部落ノ用ニ供スルモノ又ハ旅舍營業者其宿泊人ノ用ニ供スル爲メ鑛泉浴場ヲ開設セントスルモノハ本年縣令第百三十三號鑛泉營業取締規則第二條第三條第四條ニ準

シ願出ヘシ

但從前開設セルモノモ本文ニ依リ願出ヘシ既ニ鑛泉ノ成分主治効能浴法等調査濟ノ分ハ其調書ノ寫ヲ添ヘ原泉差出スニ及ハス

明治二十年十二月五日　長野縣知事　木梨精一郎

○縣令第七號

自今十六歳未滿ノ者他府縣下及他町村ニ寄留セントスルトキハ種痘初再三種又ハ天然痘濟ノ證書ヲ携帶シ寄留地戸長ノ檢閲ヲ受クヘシ

但他府縣下ニ寄留中種痘初再三種ヲ受ケ又ハ天然痘ニ罹リタルトキハ其年月日及種痘ハ感否ノ別ヲ原籍戸長ニ屆出ヘシ

明治二十一年一月二十四日　長野縣知事　木梨精一郎

○縣令第二十三號

斃獸畜取扱規則左之通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス

但從前許可シタル斃牛馬捨場ト雖モ本則ニ依リ更ニ願出ヘシ

明治二十一年二月二十二日　長野縣知事　木梨精一郎

斃獸畜取扱規則

第一條　斃獸畜（牛馬羊豚犬猫等ヲ云フ）ハ許可シタル場所ニ於テ皮骨ヲ剝取シ燒棄若クハ埋沒スヘシ

第二條　斃獸畜埋燒場ハ一町村若クハ數町村共同設置スヘシ

第三條　前條ノ埋燒場ヲ設ケントスルトキハ國縣道河川人家飲料水ヲ距ル二丁以上ノ地ヲ撰ヒ地種地目地番反別及四隣ノ地種地目ヲ詳記シタル圖面ヲ添郡役所ヲ經テ本廳ニ願出許可ヲ請クヘシ

第四條　斃獸畜ノ飼主不分明又ハ飼主アルモ遠隔ノ地ニシテ急速處置シ得サル場合ニ於テハ死屍所在ノ地主若クハ借地人ニ於テ第一條ノ場所ニ於テ燒棄又ハ埋沒スヘシ

第五條　斃獸畜ノ埋穴ハ牛馬ハ深サ六尺以上羊豚犬猫ハ四尺以上タルヘシ

但既ニ埋沒シタル場所ハ二ケ年間發掘スルヲ得ス

第六條　斃獸畜ノ化製者又ハ其他ノ者ニ於テ皮骨ヲ剝取シタルトキ其殘餘ノ汚物ハ渾テ第一條ノ場所ニ於テ燒棄又ハ埋沒スヘシ

第七條　斃獸畜ヲ以テ肥料ヲ製スル場所ハ本廳ニ願出許可ヲ請クヘシ

但出願手續ハ第三條ニ據ルモノトス

第八條　斃獸畜埋燒場ハ其境界ヲ明ニシ何郡町村斃獸畜埋燒場ト記シタル標杭ヲ建設スヘシ

第九條　戸長ニ於テハ三ケ月毎ニ斃牛馬ノ頭數ヲ取調郡役所ヲ經テ本廳ニ屆出ヘシ

第十條　本則第一條第五條第六條第七條本文ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ罰セラルヘシ

○縣令第九號

藥種商並製藥者取締細則左ノ通相定メ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

但明治十六年本縣甲第五十八號布達全甲第七十號布達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

明治二十三年二月五日

長野縣知事　內海忠勝

藥種商並製藥者取締細則

第一條　藥種商又ハ製藥者タラント欲スルモノハ族籍住所氏名等ヲ詳記シ所轄郡役所ヲ經由シ縣廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條　藥種商製藥者免許鑑札ヲ毀損亡失又ハ氏名住所ヲ變換スル等鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ所轄郡役所ヲ經由シ鑑札書換ヲ縣廳ニ願出ヘシ

第三條　藥種商製藥者ニシテ廢業又ハ死亡若クハ他府縣ヘ轉任スルトキハ所轄郡役所ヲ經由シ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第四條　藥種商製藥者ハ條末ノ雛形ニ據リ看板ヲ調製シ戸外ニ掲クヘシ

第五條　藥種商ニ於テ一容器ノ藥品ヲ更ニ數容器ニ分ツトキハ其分チタル容器ニ製造者（藥品製造會社ナレハ其所在地名及會社名）若クハ外國藥品引取人ノ住所氏名ト自己ノ住所氏名トヲ併記スヘシ

但毒藥劇藥ハ封緘ヲ開キテ小分スルコトヲ得ス

第六條　藥種商ニ於テ數容器ニ分チタル藥品又ハ製藥者自己ノ製品ニハ其容器ニ一定ノ封緘ヲ爲スヘシ

但衛生試驗所檢査印紙ヲ貼付シタル者ハ此限ニアラス

第七條　藥種商製藥者ニ於テ使用セル封緘用印紙ノ衛生試驗所檢査印紙ニ紛ハシキ者ト認ムルトキハ改訂ヲ命スルコトアルヘシ

第八條　藥種商製藥者ハ醫藥用品ト醫藥用外品トヲ區別シ置クヘシ

二十三年三月三日縣令第十七號ヲ以テ本文ノ通リ改正

第九條　藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品販賣及製造ノ業ヲ營マントスル者ハ第一條ノ免許鑑札ヲ受クルニ及ハスト雖𪜈第一條第二條第三條ニ準シ屆出其他尙第六條第七條第八條ヲ遵守スヘシ

第十條　本則第二條第三條第五條第六條（但書ヲ除ク）第八條ニ違背シタルモノ及第四條第七條ニ違背シ命ニ從ハサルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附　則

第十一條　從來內務省ヨリ製藥免許鑑札ヲ受ケタルモノト雖𪜈本則ニ據リ更ニ明治二十三年三月一日迄ニ願出ヘシ

第十二條　本則施行以前ニ於テ當廳ヨリ附與シタル藥種商免許鑑札ハ有効タルモノトス

曲尺　三尺

長野縣免許 藥種商 製藥者 姓　名

八寸

○長野縣令第二十四號

明治二十一年三月縣令第三十號娼妓檢梅規則ヲ廢止シ更ニ娼妓黴毒檢査規則左之通相定ム

明治二十五年三月七日

長野縣知事　淺田德則

娼妓黴毒檢査規則

第一條　娼妓ハ一週日間ニ一回定期黴毒檢査ヲ受クヘシ
娼妓ノ公許地内ニ於テ休業スル者ハ仍ホ前項ニ依ルヘシ但明治二十二年十二月縣令第九十一號貸坐敷營業及娼妓稼業取締規則第四十六條ニ該當スル者ハ此限ニ在ラス
第二條　前條ノ檢査定日ハ所屬黴毒病院ノ通知ニ從ヒ當日午前第九時ヨリ正午十二時迄ノ内ニ檢黴所ニ出頭スヘシ
第三條　娼妓ハ左ノ場合ニ於テハ直ニ臨時檢査ヲ受クヘシ
一　開業又ハ公許地外ニ於テ休業スルトキ
二　公許地外休業者復業又ハ逃亡者復歸ノトキ
三　定期檢査日ニ跨リ公許地外ニ宿泊セントスルトキ
四　公許地外ニ宿泊シ定期檢査一回以上ヲ越ヘタル者又ハ定期檢査當日公許地外ニ出テタル者ニシテ復歸シタルトキ
第四條　娼妓自ラ黴毒ニ感染シタルヲ覺知スルトキハ臨時檢査ヲ受クヘシ
第五條　臨時檢査ヲ受クル者ハ午前第九時ヨリ午後第三時マテ（休暇日ハ正午十二時マテ）ノ内所屬黴毒病院ニ出頭スヘシ
第六條　檢査ハ黴毒病院長若クハ同醫員之ヲ行ヒ必ス介婦ヲシテ立會ハシムヘシ
第七條　何人タリトモ檢査場ニ入ルヲ許サス但衛生係官又ハ警察官臨場ノ必要アル場合ハ此限ニ在ラス
第八條　檢査ノ上黴毒ナキ者ハ主任醫檢査票ニ檢印シテ之ヲ交付シ有毒者ハ檢査票ニ入院ノ印ヲ捺シ直ニ黴毒病院ニ入院セシムヘシ

第九條　治癒退院ノトキハ主任醫檢査票ニ檢印シ之ヲ交付スヘキモノトス
第十條　入院他中病ニ罹リ重症ト認ムルモノハ院外治療ヲ許スコトアルヘシ
第十一條　娼妓稼業ノトキ又ハ檢査場ヘ出頭スルトキハ檢査票ヲ携帶スヘシ
但公許地外ニ於ケル休業者ハ一時檢査票ヲ返納スヘシ
第十二條　檢査票ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ直ニ所屬黴毒病院ニ屆出テ更ニ之ヲ受クヘシ
第十三條　定期檢査ノ當日他出不在ノ者アルトキハ其旨寄留主又ハ同居者ヨリ檢査時限前檢黴所ヘ屆出ヘシ
定期檢査ノ當日他病ノ爲メ檢黴所ニ出頭シ難キ者ハ寄留主連署ノ書面ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ前項仝樣屆出ヘシ
第十四條　他病ノ爲メ檢査場ニ出頭シ難キ旨ヲ屆出ツルトキハ其家ニ就キ檢査ヲ行フコトアルヘシ
前項ノ場合ニ於テ他病重症ト認ムル有毒者ハ第十條ノ例ニ依ル
第十五條　娼妓廢業又ハ死亡シタルトキハ本人若クハ寄留主同居者ヨリ直ニ黴毒病院ニ屆出ヘシ
第十六條　貸坐敷營業及娼妓稼業取締人ハ本則ノ規定ニ依リ娼妓又寄留主ヨリ出ス所ノ書面ニ連署シ且檢査ニ關スル雜務ハ總テ之ヲ擔當スヘシ
第十七條　本則第一條第三條ニ違背シタル者又第二條第十三條ニ違背シ命ニ從ハサル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

○乙第九十二號

郡役所
戸長役場
衛生委員

明治十三年七月第三十四號公布傳染病豫防規則第二條ニ據リ患者届出書式別紙之通相定候條來ル七月一日ヨリ右ニ照準可届出此旨相達候事

但治癒死亡共其時々無遅滯届出ツヘシ

明治十六年六月八日

長野縣令　大野誠

傳染病届書式

傳染病患者届

郡町村番地（寄留人若クハ旅行人ナレハ其本籍モ記スヘシ）
族籍職業（戸主ニアラサル者ハ其ノ何ト記スヘシ）
氏名
年齢

一病名
一發病月日時
一診斷月日時
一診療醫師氏名

右及御届候也

衛生委員

年月日　氏名印
戸長　氏名印

郡長宛

解釋

一此届書戸長衛生委員ヨリ差出スモノハ郡長宛郡長ヨリ差出スモノハ縣令宛ニスヘシ
一職業ハ各自ノ現業ヲ明記スヘシ例ヘハ農業主ナルモ自ラ勞役セサル者ト自ラ耕作スル者トヲ區別シ又婦女老幼等定職ナキ者ハ戸主何職業ト記スヘシ
一年齢ハ幾年幾ケ月ト記スヘシ
一痘瘡患者ハ未種痘初種痘再三種痘ト頭書スヘシ

○乙第百二十號

郡役所

中央衛生會委員ドクトル、ベルツ氏別紙肺肝二病ノ意見書ヲ呈供セシニ付内務省衛生局長ヨリ照會有之候條管下公私立病院及一般開業醫ニ於テ右ニ應當スル病症發見候ハヽ其主候ヲ槩記シ人名住地職業年齢等ヲ併セテ縣廳ヘ可届出旨達方可取計此旨相達候事

明治十六年七月十日

長野縣令大野誠代理
長野縣大書記官　鳥山重信

ドクトルベルツ氏意見書

余一千八百七十八年而來日本國ニ於テ肺「ヂストマ」(Distoma pulmonalo)ト稱スル一種ノ寄生蟲ニ由リテ起ル一新病ヲ發見シ之ヲ寄生蟲咯血(Palusitaele)ト名ケリ抑々此疾病ハ日本ノ外ニ於テハ唯二人ノ臺灣人カ病ミタルヿ有リテ此他ハ余カ曾テ施療シタル一人ノ朝鮮人ニ之ヲ見シヿ有ルノミナレ𪜈日本ニ於テハ實ニ不問ニ措ク可カラサル一大疾患タリ然レ𪜈余モ亦嘗テ該病患者ニ就キテ未タ蟲卵ヲ發見セサル前ハ唯肺勞トノミ認定シタルヲ以テ隨ヒテ診斷豫後及ヒ治療モ亦其當ヲ得スメ考按ニ苦ミシヿ多カリキ

該病ハ今日本ニ夥シク之アリ余一人ニテモ百人以上ノ患者ヲ認メタル程ナレハ衛生上ニ於テハ最モ注意ヲ加ヘ其國中ニ存スル實況ヲ究メンカ爲官府ニ於テ特ニ該病ノ統計法ヲ擧行セラレンヿハ最モ緊要ノ件ト爲スヘシ然ルトキハ該病ニ罹ル者ノ多寡及ヒ其死ヲ免ルヽカ否ヲ知ルヲ得以テ公衆ヲメ其所患ノ狀況ヲ曉ラシメ且ツ其蔓延ノ勢ヲ抑制スルヲ得ルニ至ラシムルヿ亦疑ナカルヘシ此理由ヲ以テ余ハ謹テ衛生局ニ向ヒテ建言シ切ニ望ム苟クモ顯微鏡ヲ用ヒテ診斷ヲ施行シ得ルノ醫師アル病院ヨリハ此寄生蟲咯血病ノ數ニ就キテ報告ヲ報集セラレンヿヲ余カ從來經驗ニ據リテ考フルニ該病ハ日本ノ西南ノ兩地方殊ニ岡山縣熊本縣ノ如キ山多キ地ニ多ク存セル者ナラン

余ハ又六年來一種肝臟病ヲ發見シタリ其病候ハ肝臟顆粒變性或ハ肝臟黴毒ト甚タ相似タレ𪜈病原及ヒ其他諸多ノ關係ニ於テハ全ク二病ト異ナル者ナリ此疾病ハ今マテ學問上ニモ未タ論シ來ラサル所ニメ且ツ余ハ未タ曾テ其解剖ヲモ行ハサレハ病變ノ實況如何ニ至リテハ之カ明辨ヲ爲スヿ能ハス唯該病ハ寄生蟲ヨリ起ル者ト想像スルニ止ルノミ因リテ余ハ曾テ余カ知ル舊生徒ノ諸縣病院ヘ赴任スルニ當リテハ皆該病ニ注意アランヿヲ依頼シタリ然ルニ頃日岡山ニ於テ行ヒタル解剖ニ據レハ同地ニ在リテモ尚ホ寄生蟲該病ノ原因ト爲レリ因リテ考フルニ或ハ全國處々ニ地方病ト爲リテ存セル者ナランカ

故ニ余ハ海濱ニ位セル府縣各地方ノ住民間ニ於テ肝臟肥大、下利、貪食及ヒ羸痩ノ四大症候ヲ具フル疾病ノ地方病ノ狀ヲ爲シテ現存セルカ否ヲ知ランカ爲特ニ其報告ヲ徵集セラレンヿヲ切望ス殊ニ他國ニ於テ未タ曾テ見サル所ノ此疾病ニシテ已ニ現ニ岡山縣下ニ行ハルヽノ實況アレハ衛生局ニ於テ最モ注意ヲ要セラルヘキ事ト信スルナリ

一千八百八十二年十二月十四日　ドクトル、エルヴヰン、ベルツ

○乙第百二十三號

郡役所
戸長役場
衛生委員

傳染病ニ罹リタル者身元赤貧ニシテ資力ナキトキハ本籍寄留旅行ヲ問ハス詮議ノ上其費用ハ地方稅ヨリ支辨候條其始末ヲ詳記シ郡役所ヲ經由縣廳ヘ可差出此旨相達候事

明治十六年七月十四日

長野縣令大野誠代理
長野縣大書記官　鳥山重信

○乙第百四十二號

郡役所
戸長役場

藥用阿片賣買ノ義ハ明治十一年第二十一號布告藥用阿片賣買並製造規則第八第九條兩條ニ據リ醫師藥舗並醫師ノ處方箋ヲ持參シタルモノヽ外ハ一切之ヲ賣渡ス不相成候處單ニ藥種商營業者ヘ賣渡スモノ往々有之不都合ニ候條右藥用阿片販賣ノ際心得違無之樣特許藥舗ハ勿論一般藥舗營業者ヘ嚴重達方可取計此旨相達候事

明治十七年七月十七日　　長野縣令　大野誠

郡役所
戸長役塲

○乙第百八十二號

今般甲第九十三號布達候ニ付テハ明治十三年丙第十六號達及丙第百十二號達ハ自然消滅候條衛生ニ關スル事務ハ總テ戸長ニ於テ取扱フヘシ此旨相達候事

但事務取扱手續追テ相達スル儀モ之アルヘシ

明治十八年八月十七日　　長野縣令木梨精一郎代理
長野縣大書記官　鳥山重信

郡役所
戸長役塲

○乙第二百二十一號

自今虎列拉患者發生候節ハ其原因(該患者有病地ヨリ來ルカ又ハ有病地ヨリ來ル者若クハ荷物等ニ接シタルカ又ハ特發ノ類)取調患者發病屆書ト共ニ具申スヘシ此旨相達候事

明治十八年十月二日　　長野縣令　木梨精一郎

郡役所
戸長役塲

○乙第二百二十八號

（十九年四月十九日乙第七十七號達ヲ以テ本文ノ通改正）

十七年本縣乙第六十四號達町村衛生費明細表樣式別紙ノ通改正候條十七年度分ヨリ郡役所ハ甲號戸長ハ乙號書式ニ準シ取調左記ノ期限迄ニ無相違差出スヘシ此旨相達候事

明治十八年十月十六日　　長野縣令　木梨精一郎

十七年度分	郡役所ヘ差出期限 十一月十五日	縣廳ヘ差出期限 十一月三十日
十八年度以後	郡役所ヘ差出期限 四月三十日	縣廳ヘ差出期限 五月十五日

甲號

何郡

明治何年度衛生費決算調

一金　　郡衛生費

内

金　地方税
金　寄附金
金　何々金

一金　町村衛生費
内
金　町村費
金　地方税
金　寄附金
金　何々金

右之内（再揭）

一金　公立病院費
内
金　町村費
金　寄附金
金　何々金

一金　流行病諸費
内
金　地方税
金　町村費

金　寄附金
金　何々金

右之通相違無之候也

年　月　日　郡長氏名印

縣令宛

甲號書式解譯

郡衛生費ハ衛生主任郡書記及雇員ノ俸給旅費等渾テ郡役所ノ支辨ニ係ル經費ヲ揭クヘシ

再揭ノ科目中流行病諸費ハ該病ノ爲メニ消費セル總金額ヲ知ルヲ主トスルカ故ニ之カ爲メ特ニ派出セル郡吏員ノ旅費賞與其他臨時ニ雇入レタル吏員ノ俸給等ノ如キモ渾テ遺漏ナク算入スヘキモノトス

町村衛生費ハ戸長ヨリ差出タル調書ニヨリ其金高ヲ統括記載スヘシ

乙號

何郡何町村外何ケ町村

明治何年度衛生費決算調

一金　町村衛生費
内
金　町村費
金　地方税
金　寄附金

十九年四月十九日乙第七十七號ヲ以テ宛名縣令トアリシヲ郡長ト改ム

金　　何々金

右之内(再掲)

一金　　公立病院費

内

金　　町村費

金　　寄附金

金　　何々金

一金　　流行病諸費

内

金　　町村費

金　　地方税

金　　寄附金

金　　何々金

右之通相違無之候也

年　月　日　　何町村戸長

　　　　　　　　氏　名　印

郡長宛

乙號書式解譯

町村衛生費ハ衛生主務ノ町村吏及雇員ノ俸給旅費等渾テ其町村戸長役塲ニ於テ支出シタル費用ヲ揭クヘシ

再揭ハ甲號ノ解譯ニ倣ヘ記載スヘシ

○乙第二百五十號

郡役所

戸長役塲

調査ヲ要スル義有之候條毎月乳牛現在頭數及牛乳供給高左ノ樣式ニ倣ヘ取調年表ヲ製シ翌年一月末日迄ニ郡役所ヘ差出候樣戸長役塲ニ於テ該營業人ヘ無洩達方可取計郡役所ニ於テハ取綴ノ上速ニ縣廳ヘ可差出此旨相達候事

明治十八年十二月八日　　長野縣令　木梨精一郎

從明治何年一月至同　年十二月　毎月乳牛現在頭數及牛乳供給高取調表

月次	牛頭數 牝	牛頭數 犢	牛乳供給高	牝牛增減事由
一月	何頭	何頭	何斗何升何合何夕	何日何頭斃死 何日何頭買入
二月				
三月				
四月				

五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月

右之通相違無之候也

年月日

何郡何町村何番地住(寄留)

營業人　氏　名　印

縣令宛

解釋

牛頭數ハ毎月末日ノ現在數ヲ記スヘシ

牛乳供給高ノ欄ヘハ販賣シタル量數及自用又ハ無代價讓與ノ分ヲモ合記スヘシ

十八年ニ限リ七月ヨリ十二月マテ半年分取調期限迄ニ差出ヘシ

○乙第九十二號

郡役所

戸長役場

別紙種痘施術心得書部内開業醫ヘ無洩相示スヘシ此旨相達候事

明治十九年五月十日

長野縣令　木梨精一郎

種痘施術心得書

種痘術ヲ施ス者ハ種痘ノ適否接種ノ方法痘苗採收及貯蓄ノ法善感不善感ノ鑑別種痘ノ注意等ヲ詳知セサル可カラス其要左ノ如シ

第一　種痘ノ適否

第一條　種痘ハ左ニ掲クル者ニハ施サヽルヲ可トス

一　生後七十日ヲ經サル者

二　種痘ノ爲ニ一時增進スヘキ病患アル者

三　丹毒流行ノ土地ニ居住スル者

四　蔓延性ノ皮膚病アル者

五　熱性病ニ罹リ居ル者

第二條　種痘ニ適スル時期ハ春(三月四月五月)秋(九月十月十一月)二季ヲ以テ最良トス然レモ四季共ニ之ヲ施シテ妨ケナシ

第二　接種ノ方法

第三條　種痘ヲ施スハ上膊(三稜筋抵止ノ部位)ニ於テ各々三針乃至五針(受痘者ノ年齢體質等ニ隨フ)トシ各針ノ距離曲尺五分以

上ニシテ痘疱ノ暈輪互ニ密接セサル樣注意スヘシ

第四條　施術ニ先チ針尖ヲ拭淨シ一時ニ數人ニ接種スルトキハ一人每ニ之ヲ拭淨スヘシ

第五條　良性ナル痘漿ヲ採リテ移種スルヲ確實ノ良法トスレトモ此法ヲ行フヿ能ハサルトキハ貯蓄ノ痘苗ニシテ成ヘク新鮮ナル者ヲ撰ヒ用フヘシ但痂皮ハ用ヒサルヲ可トス

第三　痘苗採收及貯蓄ノ法

第六條　痘苗ハ左ニ掲クル者ヨリ採收スヘカラス

一痘疱ノ成形過度及過大ノ者發暈非常ニ大ナル者　疱緣又ハ暈部ニ水疱ヲ生スル者　痘疱非常ニ隆起シテ澄明ノ漿液ヲ漏出スル者　一種ノ疑フヘキ色例ヘハ紅藍色ヲ呈スルカ如キ者

但此等ノ異常痘疱　近傍ニ在ル正疱モ亦同シ

二痘漿ノ血液ヲ混セル者　疱ノ中央ニ在ル痘漿ノ腐敗ニ向ントスル者　痘疱ノ已ニ化膿ニ傾キシ者　爬搔又ハ摩擦ノ爲ニ痘疱破潰セシ者

三梅毒腺病及ヒ皮膚病ニ罹リ居ル者　營養不良ノ者

四丹毒ヲ併發セル者　經過不整ニシテ不善感ノ疑アル者（第十三條ヲ參觀スヘシ）

五天然痘ヲ經タル者　再三種ノ者

第七條　痘漿ヲ採ルハ通常接種後第八日（二十四時間ヲ以テ一日ト算ス下皆同シ）ヲ以テ佳トスト雖時候ノ寒暖及各人ノ性質ニ隨ヒ第七日又ハ第九日ヲ以テ適度トスルヿアリ痘疱ハ善感良性ノ者ニシテ其含包セル所ノ漿液ハ渾濁セス粘稠露滴ノ如クナルヘシ

第八條　痘漿ヲ採ルニハ痘疱ノ中心ヲ避テ疱面ヨリ斜ニ淺刺シ深ク刺シテ出血セシムヘカラス

第九條　發痘一顆ナル者ノ痘疱ハ其漿液ヲ採ルヘカラス又數顆アルモ其一顆ハ傷クヘカラス

第十條　痘苗ヲ貯蓄シテ接種ノ用ニ供セントスルニハ硝子板間ニ貯ヘテ密封シ又ハ硝子製毛細管ニ吸入セシメテ其兩端ヲ固封シ日光及寒熱ノ劇度ヲ避ケ貯フシヘ（痘苗ノ貯蓄法甚宜シキヲ得ルトキハ五箇月間充分ノ効力アリ）

第四　善感不善感ノ鑑別

第十一條　種痘善感不善感ヲ鑑別スルニハ左ノ項ヲ以テ要點ト爲ス

一接種後第二日以內ニ成形ヲ始メシヤ否

二痘疱常形ニシテ其大サ及硬皮上皮下共ニ同一ナルヤ否

三紅暈ハ常形ナルヤ否

四經過整然トシテ其時期ヲ誤ラサルヤ否

五第八日ニ至リテ微熱ヲ發スルヤ或ハ然サルモ其他ノ徵候ヲ呈スルヤ否

六痂皮ハ黯褐色又ハ黑色ニシテ其厚サ及硬サハ常度ナルヤ否

第十二條　種痘善感ノ徵候ハ左ノ經過ニ就キテ知ルヘシ

接種後第一日第二日ノ間ハ他ノ刺傷ニ異ナルヿナシ施術後針痕ノ周圍ニ淡紅色ノ小暈ヲ發スレトモ暫時ニシテ消失ス（或ハ此暈ヲ見サルヿアリ）

第三日ニハ針痕ノ部ニ小ナル紅點ヲ生シ試ニ指頭ヲ以テ之ニ觸ルレハ稍々隆起セルヲ覺ユ（經過緩慢ナル者ハ第四日第五日ニ至リ始テ此紅點ヲ生スルヿアリ）

第四日ニハ紅色ニシテ硬ク且ツ隆起セル圓形若クハ橢圓形ノ小結節ヲ生ス

第五日ニハ結節細小ノ水泡ト爲リ其周圍ニ狹キ紅暈ヲ見ル

第六日ニハ水泡稍々增大シ其邊緣隆起シテ泡ノ中央ニハ陷凹ヲ呈シ泡中ニハ稀薄透明ニシテ稍々

帶藍色ナル液ヲ充實シ周圍ノ紅暈稍々増大ス
第七日ニハ諸症益々増進ス
第八日ニハ痘疱全ク成形ス其大サハ豆大ニシテ周圍ハ焮腫シ微シク疼痛アリ疱中ノ液ハ倍々充實シ紅暈亦著シク増大ス此期ニ當リ(或ハ此期以前)微熱ヲ發シ或ハ全ク熱候ナク顏面ハ蒼白色ヲ呈スルヿアリ又腋下ニ疼痛ヲ覺エ水脈腺腫起スルヿアリ
第九日ニハ紅暈更ニ増大シ其色澤モ亦加ル第十日ニハ疱液化膿シテ白濁或ハ黄色ノ濃稠液ト爲リ疱ノ中央稍々凸隆ス然レモ其形必ス扁圓ナリ
第十二日ニ至ルマテハ痘疱其形狀ヲ變スルヿ無ク此日ヨリ收靨ヲ始メ疱ノ中央ヨリ遠緣ニ向ヒテ次第ニ乾固シ漸ク褐色ニ變シ周圍ノ紅暈モ亦漸ク消退ス
爾後黯褐色又ハ黑色ニシテ堅實ナル厚痂ヲ結ヒ初ハ皮膚ニ緊着シテ容易ニ剝離セス結痂後八日乃至十日ニ至リ始メテ剝脫ス其剝脫ノ後ニ遺セル瘢痕ハ圓形又ハ楕圓形ニシテ淺キ凹窩ヲ爲シ其窩内ニハ更ニ數多ノ小凹點ヲ呈ス
但一回種痘セシ者ニ再三種シテ感染スルヿアルモ其疱顆小ニシテ七八日間ニ全ク經過スルヲ常トス

第十三條　種痘不善感ノ諸徵ハ左ノ如シ
一接種後第二日以內ニ成形ヲ始メ常形ニ達セスシテ直ニ廣ク蔓延セル炎症ヲ發シ皮下ニ硬キヲ覺エスシテ紅暈ハ不整形ナリ痘疱ハ速ニ化膿シ其隆起ノ狀或ハ半球形或ハ圓錐形ト爲リ乾固スレハ黄色ニシテ鬆疎ナル痂皮ヲ結フ(時トシテ第二日後ニ成形ヲ始ムル者アレモ其經過總テ不整ナルヲ以テ自ラ善感ノ者ト區別スルヲ得ヘシ又不善感ノ者ト雖モ腋下ニ疼痛ヲ覺エ微熱ヲ發スルヿ無キニ非ラス)
二接種後第一日ニ大ナル赤色ノ疱ヲ生シ速ニ漿液ヲ充實シ上皮破レテ膿面ヲ呈シ或ハ濕潤セル淡色ノ痂皮ト爲ルヲ見ル
三紅暈速ニ增大シテ腫起シ或ハ遂ニ潰瘍ニ陷ル
四第八日ニ至リ數疱相合シテ一大潰瘍ト爲リ或ハ一面ノ痂皮ヲ結ヒ其潰瘍又ハ痂皮ノ周圍ニハ廣ク赤色ヲ呈ス
五痂皮剝脫ノ後ニ遺セル瘢痕ハ深クシテ不整形ヲ呈シ其底面平滑ナリ

第五　種痘ノ注意

第十四條　初種ノ不善感ハ痘苗ノ不良ナルカ或ハ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ因ル者ナルカ故ニ二三四週ノ後善良ナル痘苗ヲ撰ヒテ再種スヘシ
第十五條　種痘ヲ施スニ當リテハ併發症ヲ防キ殊ニ天然痘流行ノ際ニハ接種後第八日ニ至ルマテハ嚴ニ其感染ヲ防禦スヘシ然レモ受痘者已ニ暗ニ天然痘ニ感染シ其潛伏期ニ於テ接種スルヿ間々之アリ
第十六條　天然痘流行シ種痘ヲ猶豫ス可カラサル際ニハ第一條各項ニ揭クル者ト雖熱性病ヲ除クノ外ハ總テ接種スヘシ
第十七條　種痘中ハ寒冷ヲ避ケシメ成ルヘク清潔ノ空氣中ニ居ラシムヘシ平常慣習セル食物等ハ總テ禁忌スルニ及ハス又別ニ醫藥ヲ要セス

○乙第百五號

郡役所
戸長役塲

薬品購求者ノ義ニ付テハ兼テ該取扱規則第四條ニ制限有之候處蠶兒ノ病毒薫蒸用ニ限リ品名量數需用ノ目的等詳記シタル證書ニ其組合蠶絲業取締所又ハ組合事務所ノ印章ヲ以テ之ヲ證シタル片ハ特ニ左ノ四種ノ薬品ヲ販賣スルヲ得ヘキ旨薬舗營業者ヘ示達スヘシ

鹽酸　硫酸　過酸化マンガン　鹽化石灰

右相達ス

明治十九年六月三日　長野縣令　木梨精一郎

○乙第百十八號

郡役所
戸長役塲

虎列拉病豫防及準備心得左ノ通相定ム

右相達ス

明治十九年六月二十四日　長野縣令　木梨精一郎

第一條　戸長役塲肇生中若干名ノ豫防掛ヲ置キ毎月二回以上其部内ヲ巡回シ毎戸ニ就キ左ノ各項ニ注意セシムヘシ

但肴屋青物屋豆腐屋麩屋染物屋湯屋宿屋飲食店貸坐敷劇塲人寄席製造所學校及貧民多キ塲所等ハ特ニ清潔ナラシムルヲ要ス

十九年十月廿日縣令乙第三十九號ヲ以テ本文ノ通改正

一飲料水ノ混濁シタル者ハ濾過シテ供用スヘキヿ
一塵芥及ヒ汚穢物ハ速ニ塵芥捨置塲若クハ人家ヲ隔リタル塲所ヘ運搬スヘキヿ
一下水溝渠ハ適宜覆蓋シ且其汚水ヲ滯溜セシメサルヿ
一屎尿ハ防臭薬ヲ撒布スヘキヿ
一不熟ノ菓物及ヒ腐敗ニ傾キタルモノヲ食用ニ供セサルヿ
一牛馬繋留塲ヲ清潔ニ掃除スヘキヿ
一總テ邸宅内ヲシテ不潔ノ個所ナカラシムルヿ

第二條　虎列拉病發兆セシ片ハ速ニ左ノ各項ノ準備ヲナスヘシ

一人家稠密ノ市街ハ勿論村落ト雖モ隔離室ニ充ツヘキ家屋ヲ設クヘキヿ
一戸長役塲ニ消毒薬ヲ備フヘキヿ
一病家ニ用ユル消毒薬其他ノ費用ハ各自ノ支辨タルヘシト雖モ其資力ナキモノヽ費用ハ明治十六年本縣乙第百二十三號達ニヨルヘシ
一看護及死屍并排泄物等取扱人夫ニ差支ナキ樣手配スヘキヿ
一火葬塲ノ設ケナキ町村ニ於テハ一定ノ排泄物燒棄物ヲ設クヘキヿ

○丙第九十七號

郡役所
戸長役塲

從來酒類ニ薬品ヲ配伍シ販賣候者ハ賣薬免許鑑札下付致來候向モ有之候處右ハ醫薬ニ供スル別紙

記載ノ品類ヲ除クノ外酒類ヲ和シ飲料ニ供スルモノハ假令藥品ヲ配伍スト雖𪜈總テ酒類稅則ニ據リ課稅可致就テハ是迄下付致居候賣藥鑑札ハ返納致サセ可申旨其筋ヨリ被相達候ニ付此旨相達候事

但別紙品目外ノモノニシテ酒類ヲ和スト雖𪜈全ク藥性ヲ浸出スルニ止マルモノハ酒類稅則ノ限ニアラス其種類ニ依リ製藥又ハ賣藥ノ免許ヲ可爲受儀ト可相心得事

明治十二年十月三十日

長野縣令楢崎寬直代理
長野縣大書記官　松野篤

精劑

酒精
再餾酒精
ホフマン氏鎭痛液
甘鹽精
甘硝石精
硇砂精
硇砂加阿魏精
複方白芷精
アネース精
芳香精
芳香硇砂精

複方アルモラシア精
カヤフーテ精
龍腦精
コロヽフオルム精
桂皮精
枸橼皮精
山萮菜精
蟻精
杜松子精
複方杜松子精
ラーヘンデル精
複方ラーヘンデル精
檸檬精
複方マステツク精
英國縮葉薄荷精
椒性薄荷精
薄荷精
ミールシア精
肉豆蔻精

迷迭香精
石鹼精
セルピルリ精
芥子精
双鸞菊精
莨菪精
失鳩答精
實斐答利精
非沃斯精
萵苣精
蕃木鼈精
アルニカ花精
コロシクム實精
橙皮精
丁　幾
亞爾蘚丁幾
復方亞爾蘚丁幾
芳香酸丁幾
双鸞菊丁幾

蘆薈丁幾
複方蘆薈丁幾　蘆薈没藥丁幾
苦味丁幾
ボーメ氏苦味丁幾
アルニカ丁幾
芳香丁幾
阿魏丁幾
亞的兒製阿魏丁幾
橙皮丁幾
新鮮橙皮丁幾
バルサム丁幾
莨菪丁幾
安息香丁幾
複方安息香丁幾
ヒユツコ丁幾
泥菖丁幾
コロンボ丁幾
複方龍腦丁幾
亞的兒製龍腦丁幾

芫菁丁幾
亞的兒製芫菁丁幾
蕃椒丁幾
益智丁幾
複方益智丁幾
カスカリルラ丁幾
亞的兒製カストル丁幾
カナダ産カストル丁幾
シビリヤ産カストル丁幾
阿仙藥丁幾
褐色機那丁幾
赤色機那丁幾
複方機那丁幾
キノイシネ丁幾
キラタ丁幾
複方コローロホルム丁幾
黄色機那丁幾
桂皮丁幾
コーシネール丁幾

コルシクム丁幾
コルシント丁幾
失鳩苔丁幾
サフラン丁幾
畢澄茄丁幾　（キユベバ丁幾）
榲桲丁幾
石鹼丁幾
複方アルモラシヤ丁幾
ジキタリス丁幾
亞的兒製ジキタリス丁幾
續隨子丁幾
醋酸鐵丁幾
鹽化鐵丁幾
亞的兒製鹽化鐵丁幾
林檎酸鐵丁幾
沒食子丁幾
ゲンチアナ丁幾
複方ゲンチアナ丁幾
癒瘡木丁幾

揮發性癒瘡木丁幾　（硇砂加癒瘡木丁幾）
綠黎蘆丁幾
ヘレニー丁幾
忽布丁幾
ヒオス丁幾
ヨジウム丁幾
複方ヨジウム丁幾
脫色ヨジウム丁幾
吐根丁幾
ヤーラッパ丁幾
複方ヤーラッパ丁幾
キノ丁幾
ラタニア丁幾
ヲリシス丁幾
複方ラーヘンデル丁幾　（ラーヘンデル丁幾）
檸檬（レモン）丁幾
ロベリア丁幾
亞的兒製ロベリア丁幾
リユプリニア丁幾

肉豆蔻丁幾
亞的兒製肉豆蔻丁幾
麝香丁幾
沒藥丁幾
揮發鹽化鐵丁幾　ベスチユヘフ氏神經丁幾
蕃木鼈丁幾
阿片丁幾
安息香阿片丁幾
舍電華謨氏阿片丁幾
單阿片丁幾
脫臭阿片丁幾
硇砂精阿片丁幾
地榆丁幾
複方松芽丁幾
ピレトリユム丁幾
括失亞丁幾
規尼涅丁幾
硇砂精加規尼涅丁幾
ヤーラッパ脂丁幾

大黄丁幾
水製大黄丁幾
酒製大黄丁幾
大黄加旃那丁幾
サビナ丁幾
麒麟血丁幾
海葱丁幾
加里加海葱丁幾
麥奴丁幾
遠志丁幾
旃那丁幾
セルペンタリア丁幾
複方スピランチス丁幾
蔓陀羅華丁幾
亜的児製馬銭子丁幾
琥珀丁幾
シユンフル丁幾
チユヤ丁幾
トリユタナ丁幾

トキシコデンドリ丁幾
纈草丁幾
亜的児製纈草丁幾
硇砂精加纈草丁幾
ブアニルラ丁幾
生姜丁幾
強生姜丁幾
亜的児製莨菪丁幾
亜的児製失鳩答丁幾
亜的児製非沃斯丁幾
亜的児製龍脳丁幾
白黎蘆丁幾

酒剤

蘆薈酒
苦味酒
芳香酒
橙皮酒
龍脳酒
機那酒

コロシクム酒
コロシクム根酒
コロシクム實酒
麥奴酒
鐵酒
枸櫞酸鐵酒（枸櫞酸アンモニア鐵酒）
吐根酒
ペプシネ酒
大黃酒
海葱酒アンチモニー酒
煙草酒
酒石酸加里鐵酒

○丙第七十六號

郡役所
戸長役塲
衛生委員

明治十三年太政官第三十四號傳染病豫防規則第八條病名票之儀ハ自今衛生委員ニ於テ貼付可致此旨相致達候事

明治十四年八月十七日　長野縣令　大野誠

（參照）
太政官布告第四十七號（十五年八月二十六日）
明治十三年七月第三十四號布告傳染病豫防規則第八條中病名票貼付ノ義當分之ヲ施行セス

○丙第二百三十八號

驅梅院

其院名稱自今長野縣某（地名ヲ記ス）黴毒病院ト改正候條此旨相達候事
但從前ノ達及諸規則中驅梅院トアルハ總テ改正ノ義ト心得ヘシ

明治十七年十二月十日　長野縣令　木梨精一郎

○丙第百九十三號

長野上田松本飯田平穩諏訪　楳毒病院

入院患者賄料ハ在院日數三十一日以上ニ涉ル分ハ官費支給スヘク旨客年七月丙第三百六十三號ヲ以テ相達置候處本年六月一日ヨリ都テ自辨セシムヘク候條其旨該營業者ヘ達方可取計此旨相達候事

明治十九年五月二十二日　長野縣令　木梨精一郎

○訓令第六十五號

郡役所

今般縣令第十四號ヲ以テ定メタル下水溝厠圊芥溜改修手續ノ儀ハ先ツ以テ市街ヲナシタル地ニ於ヲ施行セシム依テ郡役所ニ於テハ其地名ヲ定メ伺出ヘシ

但市街ト村落トヲ問ハス旅舍及料理營業者ノ厠圊ハ改修手續第二條ニ依リ改修セシムヘシ

明治二十年一月二十七日　長野縣知事　木梨精一郎

戸長役場

○訓令第二十號

郡役所

戸長役場

他町村ヨリ寄留セシ者ノ内拾六歲未滿ノ者ニシテ種痘初再三種ヲ受ケ又ハ天然痘ニ罹リタルトキハ其年月日及種痘ハ感否ノ別ヲ寄留地戸長ヨリ原籍戸長ニ通知スヘシ

明治二十一年一月二十四日　長野縣知事　木梨精一郎

○訓令第六十號

郡役所

戸長役場

衛生統計表樣式別紙之通相定候條右ニ準據シ何戸長役場ニ於テハ一町村每ニ調製シ每年一月中郡役所ニ差出シ郡役所ニ於テハ更ニ之レヲ總括調製シ二月中本廳ニ差出スヘシ

明治二十一年二月十七日　長野縣知事　木梨精一郎

明治年十二月三十一日現在統計表

郡町村名

類目	種別＼年齡別	初年以上 男	初年以上 女	五年以上 男	五年以上 女	十年以上 男	十年以上 女	廿年以上 男	廿年以上 女	五十年以上 男	五十年以上 女	計
人員	本籍											
	出											
	入											
	現住											
婚姻上ノ關係	未婚											
	既婚 有配偶											
	既婚 無配偶											
癈疾	盲											
	唖											
	聾											
	瘋癲											
	白痴											
	不具											
	不治症											

計	戸數			所有地價	家畜		
	自家	借家	計		馬	牛	計

解釋

一人員ノ部出ノ欄內ヘハ本籍人ニシテ出寄留逃走等ニテ總テ現住セサル人員ヲ記シ入ノ欄內ヘハ入寄留等總テ現住セル人員ヲ記シ現住ノ欄內ヘハ本籍出入ノ三項ヲ加除シタル人員ヲ記スヘシ

一婚姻ノ關係以下諸欄內ハ總テ現住人員ニ就キ取調記スヘシ

一癈疾ノ部盲ニシテ聾啞ナルモノハ盲ノ部ヘ啞ニシテ聾ナルモノハ啞ノ部ヘ記スヘシ聾ハ大音ニ感セサルモノ不具ハ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之レニ均シキモノニシテ普通ノ業ニ堪ヘサルモノ不治症ハ中風癩病等ニテ起居動作自由ナラサルモノヲ記スヘシ

○訓令第六十一號

種痘取扱手續左之通相定メ候條右ニ依リ種痘普及候樣取計ヘシ

明治二十一年二月十七日

長野縣知事　木梨精一郎

郡役所
戸長役塲

種痘取扱手續

第一條　戸長役塲ニ於テハ條末書式ニ倣ヒ種痘臺帳ヲ調製スヘシ

第二條　種痘臺帳ニハ本籍寄留ヲ問ハス總テ十六歲未滿ノ者ヲ記載シ種痘規則第六條ノ屆出アルトキハ初種再三種ノ年月日善感不善感ノ別若クハ天然痘濟ノ年月日幷轉籍寄留又ハ死生者アル毎ニ式ノ如ク記入スヘシ

第三條　戸長役塲ニ於テハ前條ノ臺帳ニ就キ毎年種痘適齡者名簿ヲ適宜調製シ毎季種痘期日ニ先チ之レカ督促ヲナスヘシ

但種痘規則第四條ノ屆出アルトキハ本條ノ名簿ヘ記載スヘシ

第四條　每季種痘施行濟ノ上ハ其人員幷感否ノ別每町村ニ取調郡役所ヲ經テ屆出ヘシ

但種痘規則第三條ニ依リ施行シタルトキモ本條ニ準スヘシ

書式

町村番地身分（寄留ノ者ハ本籍國郡町村番地ヲモ記スヘシ）

戸主（監督者）氏名

種痘天然痘濟ノ別	初種	再種	三種	加除	生年月日	氏名
種痘濟	何年何月何日否 何年何月何日否 何年何月何日感	何年何月何日感（否）	仝上	何年何月何日 何郡何町村ヘ轉籍	何年何月何日	何誰 何男 何某
何年何月何日天然痘濟						何誰 何女 何某

一此ノ帳簿ハ町村別ニ戶籍番號順序ニ依リ一戶一枚ノ宛ヲ以テ調製スヘシ
一種痘規則第三條ニ依リ接種セシモノヽ事項ハ臺帳ヘ記載スルニ及ハス

郡役所
町村役塲

○訓令第百四十五號

死亡出產結婚調左式ノ通調製シ翌月十日限リ那役所ヘ差出シ郡役所ハ之ヲ取纒メ同月十五日限リ本廳ヘ差出スヘシ

明治二十二年四月八日

長野縣知事　木梨精一郎

何郡何町村死亡調

明治何年何月

病名及事故	死亡月日	職業	男女	婚姻上關係	氏名	年齡
何病	何月何日		男	既婚有配偶	何某	何年何ヶ月
何病	何月何日		女	未婚	何某	何年何ヶ月
何病	何月何日		男	既婚無配偶	何某	何年何ヶ月

○死亡者ハ其埋火葬認許證ヲ付與シタル土地ニテ記入スヘシ
○死體ノ棄兒ハ欄外ニ其男女及推測ノ年齡ヲ記載スヘシ
○職業欄內例ヘハ本人農ニシテ戶主商ナルキハ農ト記シ戶主大工ニシテ本人無業ナルキハ無業ト記スヘシ

何郡何町村出產調

明治何年何月

出產月日	生產死產ノ別	男女ノ別	公生私生ノ別
何月何日	生產	男	公生
何月何日	死產	女	私生
何月何日	生產 二タ子	一人男 一人女	公生

何郡何町村結婚調

明治何年何月

男ノ年齡	女ノ年齡	初緣再緣ノ別 男	初緣再緣ノ別 女
何年何ヶ月	何年何ヶ月	初緣	初緣

何年何ヶ月	何年何ヶ月	再縁以上	再縁以上
何年何ヶ月	何年何ヶ月	再縁以上	初縁

○訓令第十五號

外國輸入ノ賣藥ヲ販賣セントスルモノハ自己調製ノ賣藥ト仝ク賣藥規則第二條ノ規定ニ據ルヘキハ勿論賣藥印紙税則ニ據リ印紙ヲ貼付セシムヘキモノニ付心得違ノ者無之樣諭告方取計フヘシ

明治二十三年二月十八日

長野縣知事　内海忠勝

郡役所
町村役塲

○長野縣訓令第百五十一號

郡役所
警察署
警察分署
町村役塲

傳染病豫防心得書別册之通改正相成候ニ付自今豫防ノ方法ハ此趣旨ニ基キ施行スヘシ

但明治二十三年七月訓令第百六號仝年仝月訓令第百八號ハ廢止ス

明治二十三年十月二十一日

長野縣知事　内海忠勝

傳染病豫防心得書

傳染病ノ流行ハ一人一家ヨリ町村郡市ニ及ヒ遂ニ延テ府縣全國ノ災害トナルモノニシテ之ヲ豫防スルニハ一人一家ノ始メニ於テスルニ非サレハ其全功ヲ收ムルコ能ハス今ヤ郡市町村各其利害ヲ負擔シ處理スルノ日ニ及テハ傳染病ノ如キ其病毒ヲ一人一家ニ撲滅シテ全聚落ノ生命財産ヲ安全ニ保護スルハ自治事業ノ最モ急要ナルモノトス故ニ若シ其市町村ニ傳染病者發生スルコアレハ所在ノ醫師ハ成規ノ通報ヲ爲シ豫防上ノ要件ヲ病家ニ示諭シ病家ハ醫師及ヒ當該吏員ノ示諭スル諸件ヲ守リ當該吏員ハ十分ノ注意ヲ以テ豫防消毒ノ處置ニ疎虞遺漏ナカランコトヲ務ムヘシ而シテ豫防ノ方法ヲ實際ニ徹底セシメントスルニハ衛生組合ヲ設ケ組合中互ニ警戒扶持スルヲ良シトス蓋シ傳染病ノ流行ハ其初メ些細ノ注意ヲ缺キ或ハ患者ヲ隱蔽シ又ハ吐瀉物ヲ下水、芥溜等ニ投棄シ又ハ病毒感染ノ疑アル雇人稼人等ヲ猥リニ歸鄉セシムル等ニ因リ病毒遠近ニ傳播シ復タ防遏スヘカラサルノ勢ヲナスコ其例證一ニシテ足ラス到底衛生組合ノ法ヲ設ケ隣保相互ノ制裁ヲ以テ各人ノ注意戒愼ヲ喚起スルニ非サレハ市町村共同ノ方法モ其全効ヲ収ムルコ能ハサルナリ

以上ハ豫防實施上市町村ニ於テ擔當スヘキ用意ノ要領ニシテ若シ其流行數市町村ニ及フカ若クハ病性ノ急劇ナル虎列剌ノ如キモノニ在テハ更ニ郡又ハ府縣ノ力ヲ以テ豫防ノ方法ヲ務メサルヘカラス

此心得書ハ主トシテ患者發生セル時ノ處置即チ有病時ノ豫防法ヲ擧ケタルモノナレモ總テ傳染病ハ地方病トナリテ年々發現スル地ヲ除クノ外ハ概ネ數年若クハ數十年ヲ隔テヽ流行スルカ故ニ其流行セサル時ニハ永ク本病ノ災害ヲ免カレ得タルカ如キ思ヲ爲スト雖モ傳染病毒ハ不潔汚穢ノ土地ニ入レハ容易ニ蕃殖蔓延スルモノナルヲ以テ平常上水下水ノ改良ニ注意シ掃除ノ方法ヲ設クル

等万全根治ノ策ヲ怠ラス用水ヲ純清ニシ住地ヲ乾淨ナラシムルニ非サレハ決シテ其流行ヲ免カルル能ハス故ニ就中都會ノ地ニ於テハ鋭意上水下水ノ改良工事即チ水道暗渠布設ノ事ヲ計畫シ衛生上百年ノ長計ヲ成スヲ要ス

總則

第一條　市町村ニ於テハ便宜衛生組合ヲ設ケ清潔法、攝生法其他傳染病豫防ノ事ニ就キ規約ヲ立テ之ヲ履行スルヲ要ス

第二條　醫師傳染病者ヲ診斷シタルトキハ時ヲ移サス成規ノ通知ヲ爲スハ勿論此心得書各病部ニ掲ケタル豫防方法ヲ病家ニ懇諭スルヲ要ス

第三條　市町村ノ衛生主務吏員又ハ警察官吏傳染病者ヲ診斷セル旨醫師ノ通知ニ接シタルトキハ速ニ病家ニ臨ミ病室、器具、被服及ヒ便所等ノ消毒ヲ施行スル等相當ノ處分ヲ怠ラサランコトヲ要ス

前項醫師ノ通知ニ接セサルモ傳染病ニ疑ハシキ患者アルトキハ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ醫師ヲシテ之ヲ診察セシメ其見込ニ從ヒ豫防消毒ノ處置ヲ爲スコト前項ノ如クナランコトヲ要ス

第四條　傳染病者ノ自宅治癒ヲ爲セル家ハ衛生主務吏員又ハ警察官吏時々之ヲ巡視シテ豫防ノ方法ヲ守ルヤ否ニ注意シ又時宜ニ依リテハ人夫ヲシテ病毒ニ汚染セルモノヲ取リ集メシメ消毒法ヲ施スヲ要ス

第五條　傳染病者治癒又ハ死亡シタルトキハ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ患者ノ身體若クハ死屍看病人、患者ノ居室其他病毒ニ汚染セル衣服、器具等ニ消毒法ヲ行フヲ要ス

第六條　總テ消毒法ノ實施ニ從事シタル吏員、人夫等ハ其都度消毒法ヲ行ヒ又患者運搬器等モ使用シタル毎ニ消毒法ヲ施スヲ要ス

第七條　郡市（北海道廳ニ於テハ區）長其所轄内ニ傳染病發生シタルトキハ其豫防法ヲ周到ナラシメ又有病地ノ病況ト豫防法實施ノ景況トヲ具シテ之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

虎列剌

虎列剌ハ傳染病中ノ最モ猛惡ナルモノニシテ其蔓延流行スルニ當テハ兇暴慘虐至ラサルナキコト世人ノ普ク熟知スル所ナリ抑モ本病ノ病毒ハ一種ノ細菌ニシテ主トシテ患者ノ吐瀉物中ニ含ルカ故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノヽ消毒法ニ遺漏ナカラシムルハ勿論患者發生ノ最初即チ病毒ノ未タ散蔓セサル前ニ於テ十分消毒法ヲ行ヒ病災ヲ其一小局部ニ熄滅セサルヘカラス

第一條　虎列剌患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

一　患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト

二　患者自宅ニ於テ消毒看病行屆キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト

三　患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト

四　患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ選ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ吐瀉物ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ灌キ其吐瀉物ハ成ルヘク之ヲ燒却スルコト

五　患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳、五十分一ノ生石灰若クハ五分一

ノ石炭酸水ヲ灌キ(成ルヘク能ク攪拌スヘシ)術後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ灌クコト

六　患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ吐瀉物ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纒メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

七　患者ノ身體、吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ集マラサル樣注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ吐瀉物ニ汚染セサル樣注意スルコト

八　看病人ハ其衣服ヲ患者ノ吐瀉物ニ觸レサル樣注意シ且ツ其吐瀉物及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

九　患者ノ居室ニ入レタル飲食物ハ患者ノ外決シテ飲食スヘカラサルコト

十　患者ト居ヲ同フスルモノハ特ニ飲食物ヲ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ用ヒサルコト

第二條　虎列剌發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衞生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衞生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

一　患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サヽルコト

二　病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但已ヲ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト

三　芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ルヽ下水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ速ニ改修スルコト

四　飲食物ハ成ルヘク熱煮シテ用フルコト

五　總テ下利ヲ發シタルモノハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケ且ツ其下利患者ノ上レル便所ニハ石灰乳若クハ石炭酸水ヲ灌クコト

第三條　虎列剌流行ノ際下利若クハ吐瀉スルモノアルトキハ其瀉下物吐出物ニ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ灌キ醫師ノ診斷ヲ乞フヘシ

第四條　虎列剌發生ノ初ニ於テ其蔓延ヲ防キ得ヘキト認ムルトキハ左ノ標準ニ依リ交通遮斷ヲ施行スルコトアルヘシ

一　該患者アリタル家一軒立ニ係カルトキハ一家ヲ遮斷ス但一家內ト雖モ別棟等判然區別スルヲ得ヘキトキハ其部分ノミヲ遮斷シ又極メテ病家ニ接近シタル家屋不潔狹矮ニシテ病毒ノ傳播スルノ虞アルトキハ其狀況ニ依リ隣家ヲ遮斷スルコトアルヘシ

二　前項及傳染病豫防規則第十五條第二項ノ塲合ニ於テ交通遮斷ヲ施行スルトキハ遮斷部分ノ區域ヲ明示シ醫師、掛吏員、人夫等職務上要用アル者ノ外他ト交通ヲ制止スルコト

三　交通遮斷施行中ノ家ニ於ケル日用品買入等ノ用務ハ近隣ノ人又ハ適宜ノ取扱人ヲ定メテ之ヲ辨セシムルコト

四　交通遮斷中ハ市町村吏員又ハ警察官吏ニ於テ其區域內ノ清潔法等ニ注意スルハ勿論醫師ヲシテ區域內ノ各家ヲ巡診セシメ且豫防法ヲ諭示セシムルコト

五　患者治癒若クハ死亡シ又ハ患者ヲ避病院ニ隔離スル等遮斷區域內ノ患者全ク絕テヨリ五日間ヲ經過スルモ新患者ヲ發生セサルトキハ遮斷ヲ解除スルコト

六　遮斷區域內ノ患者絕ヘサルモ區域外ニ患者ヲ發生シ病毒已ニ他方ニ及ヒタリト認ムルトキハ速ニ遮斷ヲ解除スルコト

第五條　交通遮斷區域內若クハ曾テ虎列剌ノ流行アリシ不潔ノ塲所ニ於テハ左ノ方法ニ據リテ消毒的淸潔法ヲ施行スルコト

一　下水ニハ先ツ生石灰又ハ石灰乳ヲ投シテ能ク攪拌シ次ニ多量ノ水ヲ以テ洗滌シ十分ニ疏通

セシムルコト

二　芥溜ノ塵芥ハ成ルヘク之ヲ焼却シ若シ焼却スルヲ得サル場合ニ於テハ石灰乳ヲ周ネク撒布シテ他ノ無害ノ場所ニ運搬シ其取除キタル跡ニ尚ホ生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

三　家屋ニハ左ノ方法ニ依リテ大掃除ヲ為スコト

一　家什ヲ出シ疊ヲ揚ケ建具ヲ外シテ室内ヲ掃除シ其器具、疊、建具等ハ日光空氣ニ曝スコト

二　床下ノ塵芥ヲ除去シ成ルヘク其跡ニ乾キタル土砂又ハ石灰ヲ撒布スルコト

三　衣服臥具ハ殊ニ能ク日光、空氣ニ曝シ其汚レタルモノハ洗濯スルコト

第六條　虎列剌流行ノ虞アルトキハ其市町村又ハ郡若クハ府縣ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

一　芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損セル井戸ハ之ヲ修理スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコト

二　路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

三　醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト

第七條　前條ノ場合ニ於テハ醫師、郡市町村吏員等及警察官吏衛生官吏等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ豫防消毒ノ事ヲ擔當セシムルヲ要ス

腸窒扶私

腸窒扶私ハ其病毒專ラ患者ノ瀉下物中ニ含リ虎列剌病毒ノ如ク不潔汚穢ノ土地ニ蕃殖瀰漫シ廣ク流行ノ勢ヲ成スモノナレハ其豫防ノ方法ニ至テモ虎列剌ト略ホ其趣ヲ同フス抑モ本病ハ六種傳染病中最モ多キ疾病ニシテ各地方年々其患者ヲ發生シ流行ノ兆ヲ見サルコトナシ明治十三年傳染病豫防規則發布以來十年間ノ患者三拾壹万餘死亡七万餘ノ多キニ及ヒ加フルニ流行時期ノ長キ病症經過ノ久シキ以テ公衆ノ安全幸福ヲ損害スルニ至テハ却テ虎列剌ヨリ甚キモノアラントス故ニ本病流行ノ兆アルニ當テハ速ニ十分ノ力ヲ盡シテ之ヲ撲滅シ併セテ第二ノ流行ヲ豫防センコトニ怠ルナカランヲ要ス

第一條　腸窒扶私又ハ之ニ疑似セル熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

一　患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶ツコト

二　患者自宅ニ於テ消毒看病行屆キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト

三　患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト

四　患者ノ糞便ヲ取扱フニハ其人ヲ定メ置クコト

五　患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ選ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞便ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト

六　患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳、五十分一ノ生石灰若クハ五分一ノ石炭酸水ヲ灌キ（成ルヘク能ク攪拌スヘシ）爾後患者ノ上ル每ニ前記ノ消毒藥ヲ灌クコト

七　患者ノ用ヒタル衣服、臥具、瘢物、飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者糞便ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

八　患者ノ身體、糞便及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ集マラサル樣注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ糞便ニ汚染セサル樣注意スルコト

九　看病人ハ其衣服ヲ患者ノ糞便ニ觸レサル樣注意シ且ツ其糞便及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

十　患者ト居ヲ同フスル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ之ヲ用ヒサルコト

第二條　膓窒扶私發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

一　患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サヽルコト

二　病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但已ムヲ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト

三　芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ルヽ下水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ速ニ之ヲ改修スルコト

四　飲食物ハ成ルヘク熟煮シテ之ヲ用フルコト

五　總テ熱性病ニ罹リ又ハ下利ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

第三條　膓窒扶私患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

一　芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損セル井戸ハ之ヲ改修スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコト

二　路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

三　醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト

第四條　前條ノ塲合ニ於テハ醫師市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシムルヲ要ス

赤痢

赤痢ハ其病毒專ラ患者ノ瀉下物中ニ含リ之ヨリ傳染スルモノニシテ病性大ニ膓窒扶私ト類似スルモノナリ故ニ其豫防消毒ニ於テモ略ホ膓窒扶私ト同一ノ方法ニ據リ而シテ流行時ニ於テハ瀉下物中ニ血液ヲ混セサル患者ト雖𪜈本病者ト同樣ニ取扱フヲ要ス

抑本病ハ膓窒扶私ト同シク頗ル慘毒ヲ逞クスルモノニシテ明治十三年以來十年間ノ患者數殆ト二十萬ノ多キニ及ヒ殊ニ九州四國ノ諸縣ノ如キハ年一年ニ流行ノ勢ヲナシ病毒漸次ニ全國ニ浸淫セントス故ニ本病ノ年々發現スル地方ニ於テハ土地ノ清潔ヲ力メ殊ニ飲料水ニ注意シ下水ヲ浚渫シ發病時ニ當テハ撲滅ノ方法ニ十分ノ力ヲ盡シテ第二ノ流行ヲ防ク等總テ膓窒扶私ニ於ケルカ如クナランヲ要ス

實布垤里亞

實布垤里亞(格魯布)ハ多クハ未成年者殊ニ幼童嬰兒ヲ侵シ其幼穉ナル者ハ症狀最險惡ナリ抑モ本病ノ病毒ハ咽頭喉頭ノ如キ部分ニ含リテ患者ノ痰唾、鼻汁其他患者ノ使用セル衣服、玩具等ノ媒介ニ依リテ傳染ス故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ患者ト健康者殊ニ兒童トヲ隔離スルヲ專要トス而シテ小學校、幼穉園等兒童ノ群集スル塲所ハ往々本病傳播ノ中心トナルカ故ニ流行ノ兆アル塲合ニ於テハ特ニ注意スルヲ緊要トス

第一條　實布垤里亞(格魯布)又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

一　患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケシメ而シテ其兒童小學校、幼穉園ニ通フモノナルトキハ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校、幼穉園ニ報告スルコト

二　患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絕チ殊ニ兒童ハ一切立入ラシメサルコト

三　患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト

四 看病人ハ他ノ兒童ト接近セサル樣注意シ數々硼酸水又ハ鹽酸加里水等ヲ以テ含漱シ且ツ患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

五 患者ノ痰唾、鼻汁ヲ拭ヒタル紙片、布片等ハ蓋覆ヲ有スル容器ニ取纏メテ燒却スルコト
又患者ノ含漱シタル藥水モ石炭酸水ヲ加ヘ消毒シタル後所定ノ便所ニ入ルヽコト

六 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト

七 患者ノ玩具、飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト

八 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、飲食器、看病人ノ衣服其他總テ患者ノ痰唾、鼻汁ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

九 患者恢復ニ趣クモ醫師ニ於テ全治ト認メ且ツ消毒法ヲ行ハサル間ハ他ノ兒童ト遊戯セシメサルコト

第二條 實布垤里亞(格魯布)發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

一 患者アル家ニハ兒童ヲシテ交通セシメサルコト

二 兒童ヲシテ感冒ニ罹ラシメサル樣注意スルコト

三 兒童ノ感冒ニ罹ル者アルトキハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケシムルコト

第三條 實布垤里亞(格魯布)患者頻々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

一 醫師ヲシテ小學校、幼稚園ニ就キ其兒童ヲ診察セシムルコト

二 小學校、幼稚園ノ教員ト協議シテ左ノ豫防法ヲ實行スルコト

一 患者アル家ノ兒童ハ其患者全治又ハ死亡シタル後又他家ヘ避ケタルトキハ其避ケタル日ヨリ三週間ヲ經ル迄登校、入園ヲ禁スルコト

二 兒童中咳嗽或ハ發熱スル者アルトキハ速ニ退場セシメ且ツ醫師ノ治療ヲ受ケシムヘキ旨ヲ其家人ニ勸告スルコト

三 生徒ノ缺席數日ニ及フモノアルトキハ其家ニ就テ缺席ノ理由ヲ問フコト

四 出頭時刻ヲ晩クレ退散時刻ヲ早クシ兒童ヲシテ朝暮寒冷ノ氣ニ觸レシメサルコト

五 唱歌其他高聲ヲ發スル課業ヲ禁スルコト

六 教場ハ一層清潔ニ掃除シ休息時間ニハ悉皆窓戸ヲ開放シテ十分ニ空氣ヲ流通セシムルコト

七 教場內處々ニ適宜ノ瓶、壺等ヲ備ヘテ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ生徒ノ痰唾ハ此器中ニ吐カシムルコト

第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシメ又其病勢ニ依リテハ小學校、幼稚園ヲ閉鎖スルヲ要ス

發疹窒扶私

發疹窒扶私ハ其病毒患者ノ身體ヨリ揮散シ傳染スルモノニシテ傳播ノ最モ迅疾ナルモノナリ其一タヒ流行ノ兆ヲ呈ハスヤ忽チ散漫傳播シ殊ニ貧民部落等群集雜居ノ場所ニ侵入スルトキハ其家屋ノ不潔狹隘ニシテ空氣ノ流通不良ナルヨリ傳染ノ力モ一層猛劇トナリ全部ノ人衆ヲ侵害スルニ至ル故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ速ニ患者ト健康者トヲ隔離スルヲ專要トス而

シテ貧民部落ニ侵入セルトキハ避病院又ハ療養所ノ開設貧民救療法ノ普及ヲ怠ルヘカラス

第一條　發疹窒扶私又ハ之ニ疑似セル熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

一　患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト

二　患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院若クハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト

三　患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト

四　看病人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

五　便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト

六　患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他總テ患者ノ身體ニ接觸セルモノ及ヒ看病人ノ衣服ハ之ヲ取纒メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

第二條　發疹窒扶私發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設アル地方ニ在テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

一　患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サヽルコト

二　家屋ヲ清潔ニシ空氣ノ流通ニ注意スルコト

三　身體衣服ヲ清潔ニシ過度ノ勞力、露臥、夜行等身體ヲ衰弱セシムル事項ヲ愼ムコト

四　總テ熱性病ニ罹ル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

第三條　發疹窒扶私患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

一　醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト

二　患者アル家ニ近接セル各家ニ大掃除ヲ爲サシムルコト

第四條　前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシムルヲ要ス

痘瘡

痘瘡ノ病毒ハ痘漿痂痘中ニ含レルハ勿論患者ノ身體ヨリ發出スル蒸發氣中ニモ之ヲ含ミ傳染力ノ强烈ナル遂ニ他病ノ上ニ出ツ故ニ一枚ノ弊衣ヨリ病毒ヲ傳ヘテ遂ニ無數ノ人衆ヲ侵セルカ如キハ往々觀ル所ナリトス抑モ痘瘡ニハ種痘ノ如キ万全ノ豫防法アリテ能ク其患害ヲ未然ニ防制シ得ヘシト雖モ再三之ヲ反復セサレハ其効全カラサルヲ以テ苟クモ本病發生スルトキハ健康者ニハ臨時種痘ヲ普及セシメ患者ニハ密ニ消毒法ヲ行ヒ二者相待テ十分ニ病毒ヲ撲滅センコトヲ要ス而シテ從來ノ經驗ニ據ルニ保姆、看病人タル者親シク患者ヲ介抱シ痘毒手足、衣服等ニ十分ニ消毒法ヲ行ハサルヨリ病毒ヲ傳播セシムルノ例甚タ多シ深ク戒ムヘキコトヽス

第一條　痘瘡又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

一　患者ノ外未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タル者ハ臨時ニ種痘ヲ爲スコト

二　患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケシメ而シテ其兒童小學校、幼稚園ニ通フモノナルトキハ三週間ヲ經ル迄登校、入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校、幼稚園ニ報告スルコト

三　患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト

四 患者自宅ニ於テ消毒看病行屆キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト

五 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト

六 患者ノ居室ニハ蓋覆ヲ有スル壺等ヲ備ヘテ汚物ノ容器ト爲シ豫メ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ痘漿ヲ拭ヒタル布片、紙片又ハ落痂及ヒ居室ノ塵埃等ハ必ス此器中ニ入ルヽコト但器中ノ汚物ハ藁鉋屑等ノ燃料ヲ加ヘ石炭油ヲ灌キテ之ヲ燒却スルコト

七 看病人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

八 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト

九 患者ノ玩具、飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト

十 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、飲食器、看病人ノ衣服其他總テ痘漿ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纒メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

十一 患者ノ身體及ヒ痘漿ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ聚マラサル樣之ヲ妨クコト

十二 患者ノ痘瘡落痂スルモ醫師ニ於テ全治ト認メ入浴換衣シタル後ニ非サレハ他ノ兒童ニ交ハリ又ハ混浴ノ風呂屋ニ入浴セシムヘカラス

第二條 痘瘡發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ在テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サヽルコト

二 未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タル者ハ臨時ニ種痘スルコト

三 痘瘡ニ疑ハシキ患者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

第三條 痘瘡患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ消毒ノ施行ニ一層ノ注意ヲ加ヘ且種痘規則第三條ニ依リ臨時ニ種痘ヲ普及セシムルヲ要ス

○消毒方

傳染病毒ハ其本體已ニ詳ナルアリ未タ詳ナラサルアリト雖モ要スルニ生々蕃殖ノ機能ヲ具ヘタル一種微細ノ有機體ナルハ疑ヲ容レス此有機體タル各病孰レモ其性狀ヲ異ニシ傳染ノ景況一ナラス例ヘハ虎列刺病毒ノ如キハ專ラ患者ノ吐瀉物中ニ含リテ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染シ發疹窒扶私病毒ノ如キハ患者ノ身體及ヒ之ニ接觸セルモノ其他居室内ノ空氣ヨリ傳染シ痘瘡病毒ノ如キハ患者ノ身體、居室内ノ空氣ヨリ又ハ痘痂、痘漿及ヒ之ニ汚染セル者ヨリ傳染ス故ニ消毒法ノ實施ニ從事スル者ハ各病ノ病性ヲ知悉シ此心得書ニ據リテ火力、流熱、藥劑等總テ消毒ノ効力ヲ有スルモノヽ効用、用法ヲ領得シ決シテ疎漏ノコトナカランコトヲ要ス

消毒ノ効力ヲ有スルモノヽ種類及ヒ効用

第一 火力

凡ソ消毒法ハ烈火ヲ以テ燒燼スルヨリ安全ナルハナシ故ニ傳染病ノ死體及ヒ病毒ニ汚染スルコト甚クシテ貴重ナラサル品ハ成ルヘク燒却スヘシ

第二 流熱附煑沸

傳染病毒ハ攝氏百度以上ノ熱流ニ逢フトキハ枯死スルモノナリ故ニ消毒後使用スヘキ物品ハ

成ルヘク熱滊消毒器中ニ入レテ熱滊ノ内部ニ透徹シ易キ様適宜ニ之ヲ排列シ通常衣服ノ類ニ於テハ三十分時間以上臥具ノ類ニ於テハ一時間以上ヲ經ル迄攝氏百度以上ノ熱滊ヲ周ネク通シテ消毒スヘシ

熱滊消毒器ハ其構造宏大ニシテ寒鄉僻地ニ設クルヲ得サルモノアリト雖モ要スルニ攝氏百度以上ノ熱滊ヲ以テ消毒スヘキ物品ヲ涵蒸スルヲ得ハ足レルカ故ニ簡易ノ裝置ニ依リテ同樣ノ目的ヲ達センコトモ亦難キニアラス今其一法ヲ擧クレハ接合緊密ノ蓋ヲ有セル桶又ハ箱ヲ用ヒ底面ニ孔ヲ穿チテ蒸氣ヲ導ク處ト爲シ之ヲ釜上ニ裝置シテ蒸氣ヲ通セシメ而シテ其蓋ニ一小孔ヲ穿チ寒暖計ヲ插入シ攝氏百度ヲ表スルニ至ラシムヘシ此裝置タル甚タ簡易ニシテ費用ヲ要スル少ナキカ故ニ如何ナル地方ニモ之ヲ設クルヲ得ヘク而シテ消毒ノ目的ハ十分ニ之ヲ達シ得ルモノナリトス

又熱湯中ニ煮沸スルモ濕熱消毒法ト其理ヲ同シフス故ニ市町村ニ於テハ煮沸ノ用ニ供スヘキ大釜ヲ備フルトキハ十分消毒ノ目的ヲ達シ得ヘシ但煮沸ハ三十分時間以上ヲ持續セサレハ消毒ノ効全カラストス

第三　藥劑

甲　石炭酸水（二十倍）結晶石炭酸五分 水九十五分

石炭酸水ハ各種ノ傳染病毒ヲ撲滅スルノ力アリテ効用甚タ廣シト雖モ其價格高貴ナルヲ以テ消毒費ヲ增多スルノ憂アリ故ニ成ヘク他ノ消毒藥ニテ消毒ヲ爲シ難キモノ（例ヘハ石灰乳ヲ用フレハ光澤ヲ損シ昇汞水ヲ用フレハ危險ノ虞アル等）其他主トシテ用フヘキ消毒藥ノ缺乏セル場合ニノミ使用スヘシ

本品ハ結晶石炭酸ヲ以テ製スルヲ通例トス然レモ場合ニ依リ粗製石炭酸ヲ以テ之ヲ製シ本品ニ代用スルモ可ナリ但粗製石炭酸水ハ消毒後斑點ヲ遺スノ虞アルヲ以テ構造精緻ノ家屋貴重ノ物品等ノ消毒ニハ使用スヘカラス

本品ヲ以テ消毒スルニハ左ノ件々ヲ守ランコトヲ要ス

一　本品ヲ以テ衣類等消毒スルニハ十二時間以上浸漬シ其後淨水ヲ以テ更ニ洗濯スヘシ

二　本品ヲ以テ器具、室内ヲ消毒スルニハ拭淨又ハ撒布シテ後淨水ヲ以テ更ニ拭淨スヘシ

三　本品ヲ以テ手足ヲ消毒スルニハ先ツ本品ヲ以テ洗ヒタル後淨水ヲ以テ洗淨スヘシ

本品ヲ製スルニハ先ツ石炭酸十分ニ水大約一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツヽ徐々ニ水ヲ注キ全量二百分ニ至ラシムヘシ溫湯ヲ用フレハ其溶解殊ニ速カナリ但衣類等ニ使用スルヲ除キ其他ノ場合ニ於テハ更ニ鹽酸若クハ酒石酸分ヲ加ヘ使用スルトキハ其効著シトス

乙　昇汞水（千倍）昇汞一分、鹽酸五分 水九百九十四分

昇汞水ハ價廉ニシテ消毒ノ効著シキモ猛毒ニシテ無色無臭ナルカ爲メ危險ヲ招キ易キノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際十分ノ注意ヲ加ヘ又其危險ヲ防カンカ爲メ本品百分ニ硫酸銅一分ヲ加ヘテ藍色ト爲スカ又ハ昇汞ノ効ヲ失ハサル色素ヲ加ヘテ著色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス

又本品ハ飲食器、玩具及ヒ飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒ニ用フヘカラス金屬若クハ糞便中ノ成分ニ逢フトキハ分解又ハ凝結シテ其効力ヲ失フノ虞アルヲ以テ金屬製器、糞便及ヒ吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス又金屬製器ニ貯フヘカラス

本品ヲ以テ手足ヲ消毒シ又ハ消毒後使用スヘキ物品ヲ消毒シタルトキハ必ス淨水ヲ以テ數回洗滌スヘシ

甲乙兩種ノ消毒藥ニハ「劇しき藥なり飲むへからす」ト票記スヘシ

丙　生石灰

石灰乳（十倍）生石灰一分 水九分

生石灰及ヒ石灰乳ハ虎列剌腸窒扶私等ノ病毒ヲ消滅スルノ効力アルモノナレハ吐瀉物瀉下物下水等ヲ消毒ニハ總テ之ヲ使用スルヲ良シトス

生石灰又ハ石灰乳ヲ以テ吐瀉物瀉下物ヲ消毒スルニハ之ヲ入レテ能ク攪拌スヘシ

生石灰ハ石灰石ヲ燒キ製シタル塊ニシテ少量ノ水ヲ灑ケハ熱ヲ發シ崩壞スルモノヲ用フヘシ

又石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ヲ取リ九分ノ水ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ但石灰乳ハ成ルヘク用ニ臨テ之ヲ製シ使用ノ際ハ毎回能ク攪拌スルヲ要ス

丁　格魯兒石灰水即チ鹽化石灰水（廿倍）格魯兒石灰五分 水九十五分

格魯兒石灰水ハ便所、下水、芥溜、床、床下及ヒ土間等ノ消毒ニ用フ本品ハ用ニ臨テ製スルヲ可トス

戊　硫酸若クハ粗製硫酸同量ノ水ニ溶解シタルモノ

硫酸若クハ粗製硫酸ハ石灰乳、石炭酸水等ノ代用品トシテ糞池、下水等ノ消毒ニ用フルヲ得ヘシ但本品ハ強キ腐蝕性ヲ有スルヲ以テ之ヲ取扱フノ際能ク注意スヘシ

本品ヲ以テ糞池ヲ消毒スルニハ糞便ト同量ノ本品ヲ注テ攪拌スヘシ本品ヲ糞池ニ入ルレハ糞便沸騰シテ溢流スルノ恐アルヲ以テ其糞便多量ナル場合ニハ其幾分ヲ他器ニ分チテ各別ニ消毒スルヲ可トシ又本品ハ漆喰蔽、金屬製器ヲ損傷スルノ恐アルヲ以テ糞池ノ周圍漆喰蔽ナル時ハ消毒ノ際特ニ注意シ又金屬製器ニ容ルヘカラス

本品ヲ製スルニハ五十分ノ水ヲ取リ絕ヘス其水ヲ攪拌シツヽ注意シテ徐々ニ硫酸若クハ粗製硫酸五十分ヲ注加シ製スヘシ決シテ硫酸中ニ水ヲ注加スヘカラス

消毒ノ方法

第一　患者

傳染病者治癒シタルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ全身ヲ拭淨シタル後直ニ浴ヲ取ラシムヘシ

第二　死體

傳染病者ノ死體ハ其被服ニ消毒藥ヲ撒布シテ棺內ニ歛ムヘシ但成ルヘク火葬スルヲ良トス

第三　看病人其他病家ノ家人等

看病其他病毒ニ汚染シタル病家ノ家人消毒法ノ施行ニ從事シタル吏員、人夫等ハ手足ヲ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ消毒スヘシ但看病人、吏員人夫等ハ豫メ爪ヲ剪リ其間ニ汚垢ナキ樣注意シ置クヘシ

第四　患者、死體等運搬器

患者、死體等ヲ運搬シタル駕籠、釣臺戶板ハ使用ノ都度周ネク昇汞水又ハ石炭酸水ヲ灑クヘシ

第五　便所、芥溜下水等

虎列剌患者ノ吐瀉物、腸窒扶私、赤痢患者ノ瀉下物ノ入リタル便所ノ糞池、大糞池、肥料溜等ニハ少ナクモ糞便ノ量十分一ノ石灰乳若クハ格魯兒石炭水此用量ハ最低度ヲ示シタルモノナレハ多キニ過クルハ固ヨリ妨ナシヲ灑キテ能ク攪拌シ其周圍ノ地面ニモ周ネク右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ但此消毒法ヲ施行シタル糞池、肥料溜等ノ糞便ニシテ爾後新タニ患者ノ吐瀉物又ハ瀉下物ヲ混入セサルトキハ一週間ノ後普通ノ糞便同樣肥料ニ供スルモ妨ケナク又其便所ハ消毒後之ニ通フモ妨ナシ虎列剌患者ノ吐瀉セル土間ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灑キ吐瀉物ト共ニ表面ノ土ヲ掘リ取リテ之ヲ人家遠隔ノ地ニ埋ムルカ成ルヘクハ燒却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ

虎列剌患者ノ吐瀉物ヲ投棄シタル芥溜ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ撒布シタル後塵芥ヲ盡ク取除キテ燒却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ
虎列剌患者ノ吐瀉物ヲ混入シタル下水溝ニハ生石灰、石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌テ能ク攪拌シタル後多量ノ水ヲ灌テ疏通セシムヘシ

第六　衣服、器具、疊、敷物等

一　傳染病者ノ著用セル衣服及ヒ患者ノ用ニ供シタル臥具、蚊帳、飮食器、藥用器、玩具其他患者ノ居室內ニ在リタル諸器具ノ類

一　看病人其他病毒ニ汚染セル病家ノ家人消毒法ノ施行ニ從事セル吏員、人夫等ノ著用セル衣服及ヒ手巾、足袋、靴、草履等

一　患者ノ居室內ニ用ヒタル疊、蓆、敷物等ニシテ消毒ヲ必要ト認メタルモノ

右ノ內衣服、臥具、蚊帳等總テ織物綿ノ類ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但汚染甚シク且ツ高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良トス

（一）滊熱 消毒スヘキ物品ニ應シ攝氏百度以上ノ熱滊ニテ三十分乃至一時間以上挨チク通セシム

（二）煮沸 熱湯中ニ三十分時間以上煮沸ス

（三）石炭酸水浸漬 石炭酸水中ニ十二時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗滌ス

（四）昇汞水浸漬 昇汞水ニ十二時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗滌ス

陶器、金屬製器ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ

（一）石炭酸水拭淨 石炭酸水ヲ以テ拭淨シタル後更ニ淨水ヲ以テ拭淨ス

（二）乾布拭淨 屢々乾布ヲ交換シテ內外面ヲ能ク拭擦シ其乾布ハ速ニ燒却ス

其他ハ滊熱、煮沸、石炭酸水、昇汞水等ノ浸漬ヲ用フ但昇汞水ハ金屬製器ニ用フヘカラス
木製器ニハ前二項ニ依リ行フヘシ但汚染甚シク且ツ高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良シトス
漆器ニハ石炭酸水又ハ乾布ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ
革製品ニハ石炭酸水ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ
疊、蓆、絨緞、段通ノ類ハ石炭酸水ヲ撒布シ然ル後日光大氣ニ曝シ乾燥セシムヘシ但汚染甚シキモノ 例之ハ患者ノ吐瀉物、瀉下物ノ浸潤セルモノ虎列剌、發疹窒扶斯、痘瘡患者ノ病室內ニ敷キアリタルモノノ類 ハ燒却スヘシ

第七　患者ノ居室

傳染病者ノ居室其他消毒ヲ必要ト認メタル室ハ先ツ室內ノ疊、敷物ヲ揚ケ 此疊、敷物ノ消毒ハ前項ニ據ルヘシ 室內各部床及ヒ床下ヲ掃除シテ其塵芥ヲ燒却シ 床及ヒ床下ニ吐瀉物滲溺セルトキハ石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ十分ニ撒注スヘシ 掃除後昇汞水又ハ石炭酸水ヲ以テ室內各部ヲ叮嚀ニ拭淨スヘシ
右ノ消毒ヲ了レル後ハ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室內ノ全ク乾燥スル迄家人ノ起臥ヲ爲サシメサルヲ可トス但雨天ノ日ニ於テハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ

第八　滊車

虎列剌患者アリタル滊車ノ車室ハ先ツ吐瀉物ヲシテ汎ク散漫セシメサル爲メ石灰、石炭屑、灰、砂、鋸屑等ヲ撒布シ之ヲ取リ除キテ燒却シ車內ノ消毒ハ前項患者居室ノ消毒法ニ準スヘシ
但車室ニ附屬スル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

第九　船舶

傳染病者アリタル船舶ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但其船舶ハ消毒法ヲ行フニ先チ人家及ヒ他

ノ船舶ニ隔タリタル所ニ廻航セシムルヲ要ス

一患者アリタル船室ハ先ツ室内ノ臥具、戸張、敷物ヲ取除キ第六項ニ依リテ消毒シ室内各部等ヲ掃除シ次ニ昇汞水又ハ石炭酸水ヲ周ネク室内ニ撒布シテ後水ヲ以テ叮嚀ニ洗淨シ爲シ得ヘキタケ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スル迄船客ヲ入ルヘカラス但時宜ニ依リテハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ

一患者アリタル室ノ外ト雖モ病毒汚染ノ疑アル塲所及ヒ不潔ノ塲所ハ水ヲ以テ洗淨スヘシ虎列剌ニ於テハ前二項ノ他尙ホ左ノ方法ヲ行フヘシ

一患者ノ上リタル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ撒布シテ後水ヲ以テ充分ニ洗滌スヘシ

一吐瀉物滲漏ノ虞アルトキハ消毒藥ヲ灌キ船底ニ潴留セル汚水ヲ排除シタル後水ヲ以テ之ヲ洗滌スヘシ

一船中ノ飲用水ハ新鮮ノ良水ト交換シ其際充分ニ其貯器ヲ洗淨スヘシ

○長野縣訓令第六十八號

郡役所
町村役塲

本年五月內務省令第三號ニ據リコッホ結核病治療液ヲ使用セントスル者ニシテ同省ノ認可ヲ請フトキハ其書面ニ左ノ事項ヲ詳細記入セシムヘシ

明治二十四年五月八日

長野縣知事淺田德則代理
長野縣書記官 小野田元熈

一院長若クハ醫師ノ履歴

一病室ノ數其廣狹及該患者ヲ入ルヘキ豫定數

一助手及看病人ノ數其每人ニ受持タシムヘキ患者ノ豫定數但助手ハ履歴ノ概略ヲ添フヘシ

一結核菌ヲ檢スルニ必要ナル顯微鏡ノ有無其他檢查用ノ器具

○長野縣訓令第三十一號

黴毒病院
仝 分院

各檢黴所檢查定日左ノ通相定メ候條所屬娼妓及貸座敷營業人ヘハ其院ヨリ通知スヘシ

但檢查定日年首ノ三日及大祭日ニ相當スルトキハ其翌日檢查スルモノトス

明治二十五年三月七日

長野縣知事 淺田德則

月曜日	坂城	下諏訪	鹽尻町	
火曜日	鶴賀	常盤城	上諏訪	横田
木曜日	岩村田			
金曜日	長窪新町	飯田		
土曜日	平穩			

○長野縣訓令第三十二號

黴毒病院

廿五年五月十七日訓令第六十八號ニテ本文ノ通改正

全　分　院

娼妓入院又ハ退院シタルトキハ其都度月日幷寄留主及本人ノ氏名ヲ警察署若クハ分署ヘ報告スヘシ

入院日數引續キ十日ヲ越ヘタル者ハ其都度入院月日幷寄留主及本人ノ氏名ヲ直ニ郡役所ヘ報告スヘシ

明治二十五年三月七日　長野縣知事　淺田德則

○達第二十七號

黴毒病院

黴毒病院職制並諸規則別紙之通相定ム

明治二十一年三月九日　長野縣知事　木梨精一郎

長野縣黴毒病院職制並諸規則

第一章　職制並事務章程

本院ハ娼妓ノ黴毒及之ニ類似シタル諸症ト疥癬トヲ檢診治療スルモノトス其職員左ノ如シ

職制

院長　一員

知事ノ命ヲ奉シ衛生課長ノ指揮ヲ承ケテ院中一切ノ事務ヲ管理ス

患者ノ檢診治療ヲ掌トル

監事以下ヲ指揮監督ス

監事　一員

院長ノ指揮ヲ承ケテ庶務ニ從事ス

小使看病婦ヲ指揮監督ス

院務上ニ付意見アルトキハ院長ニ商議シ又ハ直ニ具狀スルヲ得

醫員　無定員

院長ノ指揮ヲ承ケ患者ノ檢診治療ニ從事ス

院務上ニ付意見アレハ院長ニ商議シ又ハ直ニ具狀スルヲ得

藥劑生缺員ノトキハ之ヲ兼務ス

藥劑生　無定員

院長及醫員ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ從事ス

事務章程

本院ノ事務院長ニ於テ專行スルヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一　臨時ニ醫員及藥劑生ヲ雇入ルヽ事

二　小使看病婦ヲ進退スル事

三　入院患者事故ニ依リ一時出院願ヲ許否スル事

四　入院患者賄方受負人ヲ定ムル事

五　成規ニ據リ娼妓ノ黴毒ヲ檢診スル事

六　黴毒檢査票ヲ下附スル事

七　黴毒檢査ノ上娼妓ヲ入出院セシムル事

八　入院患者異症ヲ發シ危篤ナルトキ又ハ他病ノ爲メ退院セシムルトキ取締人ヘ通知スル事
九　入院患者ニ贈ラントスル食品ヲ許否スル事
十　成規ニ據リ豫算金ヲ收支スル事
十一　紙屑及糞尿ノ代金ヲ收入スル事
十二　臨時ニ雇人夫ヲ使用スル事
十三　職員三日以內病氣屆ヲ處理スル事
十四　出勤簿ヲ製シ院長以下之ニ捺印スル事
十五　宿直ノ當番ヲ定ムル事
十六　定額金壹圓以內ヲ以テ藥品及薪炭油筆墨紙其他常用ノ雜品等ヲ購求スル事
十七　金壹圓以內ノ費額ヲ以テ修繕スル事
十八　金壹圓以內ノ金額ヲ以テ治療器械及備付品ヲ購求スル事

第一項二項四項ハ決行ノ後直ニ報告スヘシ

第二章　監事々務取扱心得

第一條　院內ヲ巡視シ且內外ノ掃除ヲ指揮シ不潔ナカラシムヘシ
第二條　總テ經伺ヲ要スルモノ及公文ニ係ル發信書又ハ他日參照ニ供スヘキ事件ハ第六號圖ノ如ク回議書ヲ作リ院長ノ檢印ヲ受ケ執行スルモノトス
　但回議書ハ順次集綴シテ半年又ハ一年ツヽ簿冊トナシ之ヲ保存スヘシ
第三條　諸達及外來信書ハ其部類ヲ區別シ之ヲ簿冊トナシテ保存スヘシ
第四條　會計其他ノ出納ハ豫テ達アル出納規程ニ據ルヘシ

廿五年達甲三十三號ヲ以テ第十條削除ス

第五條　每月一回以上器械其他ノ物品ヲ調査スヘシ
第六條　娼妓梅毒檢查票ハ第七號圖ノ如キ木板ヲ作リ西ノ內紙ヲ以テ印刷シ置キ新稼業者檢査出願ノ際第八號圖ノ如キ帳簿ニ割印シ之ヲ下付スヘシ
第七條　娼妓並ニ貸座敷現在數ハ第九號圖ニ倣ヒ各簿ヲ調製スヘシ
第八條　娼妓入院出院スルトキハ第十號圖ノ如キ簿冊ヲ製シ置キ其都度遺漏ナク登記スヘシ
第九條　娼妓稼業上異動アルトキハ第十一號圖ノ如キ簿冊ヲ製シ置キ其都度遺漏ナク登記スヘシ
第十條
第十一條　臥具ハ一人ニ付冬季蒲團三枚夏季二枚ノ割ヲ以テ貸與スヘシ
　但蚊帳ハ人員ノ多寡ニ因リ適宜取扱フヘシ

第三章　醫員事務取扱心得

第一條　檢黴ノ事タル婦女子ノ最モ羞澁スヘキ情狀アルヲ免レサレハ苟モ之ニ從事スル者ハ自カラ方正ニシ猥褻ニ紛ハシキ行爲アルヘカラス
第二條　檢査定日ハ例刻ニ後レス檢查所ヘ出張スヘシ
　但檢査ノ上有毒者ハ第一圖ノ如キ送證ヲ付與スヘシ
第三條　新タニ娼妓稼業ヲ爲スモノ及臨時檢查ヲ願出ツルモノアルトキハ梅毒病院ニ於テ檢查ヲ爲スヘシ
第四條　娼妓梅毒檢查ニハ每回必ス器械ヲ用ウヘシ
　但病氣其他事故アリテ用ヰ能ハサル時ハ此限ニアラス
第五條　病室回診ノ節ハ懇ロニ患者ノ病狀ヲ驗察シ診療保護ニ注意スヘシ

廿五年三月廿九日訓令第四十四號縣費給與規則ニ因リ消滅

第六條　藥品其他治療器械及需用品等買入又ハ修繕ヲ要スル者ハ監事ト商議シ規則ニ據テ處辨スヘシ

第七條　日表第二號圖月表第三號圖娼妓梅毒檢查統計表第四號圖黴毒病院患者表第五號圖監事ト商議シ各二葉ヲ製シ一ハ縣廳ニ進達シ一ハ醫局ニ備置クヘシ

但日表月表ハ翌月十日半年表ハ七月一月十五日一年表ハ一月三十日限リ差出スヘシ

第八條　他日參考ニ供スヘキ病者ヲ治療セシ片ハ實驗書ヲ作リ其時々報告スヘシ

第九條　處方錄治驗錄等ヲ備ヘ後日ノ照案ニ供スヘシ

第四章　藥劑生事務取扱心得

第一條　調藥ハ醫員ノ指揮ニ因リ必ス方箋ヲ照シテ之ヲ調整シ苟クモ差量アルヘカラス

第二條　藥劑ヲ與フル片ハ藥瓶或ハ藥袋ニ其用法ヲ解シ易ク認ムヘシ記載シ尙患者及看病人ニ對シ懇篤ニ口授スヘシ

第三條　醫員ノ方箋ナキモノハ決シテ藥劑ヲ與フ可ラス

第四條　毒藥及劇藥ハ必ス明瞭ナル標徵ヲ貼シ毒藥ハ紅紙劇藥ハ黃紙平藥ハ白紙ヲ用ウ他ノ藥品ト別ニ貯藏シ誤用ノ虞ナカラシムヘシ

第五章　職員旅費支給法

第六章　梅毒病院通則

第一條　檢查醫員ノ送證ニ依リ娼妓入院スル片ハ監事之ヲ各室ニ配置スヘシ

第二條　入院ノ患者金錢ヲ携帶スル者アル片ハ監事之ヲ領置シ預リ書ヲ渡シ置キ退院ノ節還付スルモノトス

但入院中臨時入用アリテ返還ヲ求ムル片ハ其事由ヲ糺シ入用ノ額ヲ渡シ殘餘アレハ仍ホ預リ置クヘシ

第三條　患者入院中其父母疾病ニ罹リ看護又ハ一時面會ノ爲メ出院ヲ請フ者ハ親戚（親戚アラサル者ハ身元引受人）ヨリ事由ヲ詳記シタル書面ニ寄寓主並ニ取締人ノ加印ヲ徵シ診斷書ヲ添ヘ出願ナサシムヘシ

第四條　要用アリテ入院患者ニ面會セント欲スル者取締人ノ保證書ヲ以テ其旨屆出ル片ハ應接所ニ於テ面會セシムヘシ若シ患者重症ニシテ步行シ難キ時ハ監事ノ許可ヲ得テ室內ニ伴フコトヲ得

但時宜ニ依リ看病婦ヲシテ立會シムルコトアルヘシ

第五條　外來人入院患者ト應接ノ時間ハ午前第九時ヨリ午後第三時迄トス

但土曜日並ニ定例ノ休日ハ患者ニ面會ヲ許サス

第六條　患者入院中重症ニシテ別ニ附添人ヲ要スル者ハ事情ニ依リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

但其費用ハ悉皆使用人ノ自辨トス

第七條　入院患者賄料ハ總テ自辨タルヘシ

第八條　入院患者ニ貸渡シタル物品ヲ毀損シ或ハ紛失シタル片ハ其代價ヲ償ハシムヘシ

第九條　入院患者全治シテ退院セシムル片ハ其旨取締人ヘ通達シ引取人出頭スルヲ待テ本人ヲ引渡スヘシ

但引取人ヨリ取締人ノ保證書ヲ徵スルモノトス

第十條　宿直ハ警火ニ注意シ午後九時各室ヲ巡視取締ヲナスヘシ

但午後九時ヨリ病室ノ境界ヲ鎖鑰スヘシ

第十一條　職員ト雖モ巡視ノ外別リニ病室ニ入ルヲ許サス
第十二條　職員治療巡視等ノ節ハ看病婦ヲシテ付從セシムヘシ

第七章　入院患者心得

第一條　病室
醫員ヨリ散歩ヲ命スルノ外他出ハ勿論濫リニ他ノ病室ニ入ルヲ許サス
藥用攝生等醫員ノ命ニ違背スヘカラス
醫員ノ許可セサル食物ハ一切室內ニ持入ルヘカラス
喧嘩口論放歌等喧噪ノ行爲ハ勿論骨牌等ヲ以テ遊戲ヲナスヘカラス
衣服其他ノ物品ハ互ニ貸借スルヲ許サス
戸壁行燈等ヘ戯書シ或ハ破毀スヘカラス
室內ハ毎日二回以上掃除ヲナシ窓戸ヲ開テ空氣ヲ流通スヘシ

第二條　食室
食析ヲ擊タハ順次食案ニ就キ席次ヲ亂ルヘカラス
喫飯中談話及雜沓スヘカラス
重症ニテ歩行ナリ難キ患者ノ外室內ニ於テ喫飯スルヲ許サス

第三條　浴室
患者ハ必ス日々入浴スルモノトシ其時間ハ午後第一時ヨリ同第四時ヲ限リトス
但重症ノモノハ醫員ノ指揮ニ從フヘシ
攝氏四十四度以上ノ湯ニ浴スルヲ許サス

裸體ニテ室外ニ出ルヲ許サス

第八章　看病婦心得

一勤務ハ總テ醫員及監事ノ指揮ニ從フヘシ
一患者ハ誰レ彼レノ別ナク親切ニ取扱假ニモ偏頗ノ所爲アルヘカラス
一診察及服藥時限ハ常ニ記臆シ置キ其扱ヲ怠ルヘカラス
一午前六時（長日ハ五時）寢具ヲ収メ盥嗽及掃除等ヲ畢リテ後患者ヲシテ朝飯ヲ喫セシムヘシ
一同七時（長日ハ六時）診察及治療ヲ受シムヘシ
一治療終ラハレセフトヲ藥ノ容器ニ添ヘ藥局ニ差出シ藥ヲ受取ルトキハ委シク其用法ヲ承知シ内服藥ハ特ニ注意シテ服用セシムヘシ
一浴湯セシムル時ハ順次ヲ正シ雜沓ナカラシムヘシ
一午後四時（長日ハ五時）ニ至リ再ヒ治療ヲ受ケシムルヲ以テ豫テ其用意ヲナサシムヘシ
一俄然併發症又ハ重症者アルトキハ速カニ醫員ニ告ケ診察ノ際ハ委シク患者ノ容体ヲ述フヘシ
一平常爐火鉢等ノ火器ニ注意スルハ勿論夜分ハ殊ニ各室ヲ見廻リテ後寢所ニ入ルヘシ
但各室ノ爐火ハ午後九時限リ取除クヘシ
一休日ハ午前八時ヨリ午後六時迄ハ外出ヲ許スト雖モ都合ニヨリ差止ムルコトアルヘシ
一休日ノ外ハ常ニ病室ニ在リテ患者ノ扱ニ注意スヘシト雖モ若シ不得止要用アリテ外出セントスルトキハ醫員及監事ノ許可ヲ請クヘシ
一病室ハ勿論便所ニ至迄掃除ヲナシ常ニ清潔ナラシムヘシ
一患者意思ヲシテ常ニ裁縫習字讀書等ニ傾向セシメ成ルヘク正業ニ基ク様誘導スヘシ

一患者若シ規則ニ背クカ又ハ訓誡ヲ用サル事屢々ナルトキハ其旨監事ヘ申出ツヘシ

第一號

患者數名アルトキハ列記スヘシ

入院患者送證

貸坐敷名

娼妓氏名

明治年月日

右令入院候也

檢査醫員氏名

第二號

明治　年　月　何黴毒病院日表

種別	娼妓ノ部 現在人員	檢査人員	開業	復業	廢業	休業	逃亡	死亡	患者ノ部 入院	出院 全愈	有故	死亡	現在院
一日													
二日													
三日													
四日													
五日													
六日													
七日													
八日													
九日													
十日													
十一日													
十二日													
十三日													
十四日													
十五日													
十六日													
十七日													
十八日													
十九日													
廿日													
廿一日													
廿二日													
廿三日													
廿四日													
廿五日													
廿六日													
廿七日													
廿八日													
廿九日													
三十日													
卅一日													
合計													

第三號

明治　年　月　何黴毒病院月表

病症別	跨月滯院 二十年以下	跨月滯院 廿五年以上	跨月滯院 三十年以下	跨月滯院 三十年以上	跨月滯院 小計	入院 二十年以下	入院 廿五年以上	入院 三十年以下	入院 三十年以上	入院 小計	合計	出院 全癒	出院 有故	出院 死亡	出院 計	現在院	治療日數
眞性黴毒 初發硬結期																	
眞性黴毒 贅肉發生期																	
眞性黴毒 護謨腫發生期																	
假性黴毒 軟性下疳																	
假性黴毒 便毒																	
雜症 子宮諸病及膣加答兒																	
雜症 尿道諸炎																	
雜症 傳染性皮膚病																	
雜症 膿漏性結膜炎																	
雜症 剃脫及其他陰部不潔病																	
雜症 痔疾																	
合計																	

娼妓開業　人
娼妓廢業　人
娼妓休業　人
娼妓復業　人
娼妓逃亡　人
娼妓死亡　人
娼妓本期末現在數　人
檢查總數　人

第四號

何黴毒病院娼妓黴毒檢查統計表

明治　年

檢查地名	娼妓一日ノ平均數	檢查總數	患者 眞性	患者 假性	患者 雜症	一ケ月檢查平均日數	檢查醫員	支消金額 圓 錢
町								
村								
合計								

一年間ノ事實ヲ掲クヘシ
娼妓一日ノ平均數ハ一ケ年間ノ娼妓日々ノ現在數ヲ積算シテ延人數ヲ作リ更ニ之ヲ其間ノ日數ニ割リ其得ル所ノ平均人員ヲ掲ク
檢査總數ハ一ケ年間檢査シタル人員ノ總計ヲ掲載スルモノニシテ例ヘハ一人娼妓ヲ一ケ月四回檢査スルトキハ之ヲ四人ト見做シ即チ一ケ年間ノ數ハ四十八人トス

第五號

何黴毒病院患者表

明治　年　半期

病症別	眞性黴毒 初發硬結期	眞性黴毒 贅肉發生期	眞性黴毒 護謨腫發生期	假性黴毒 軟性下疳	假性黴毒 便毒	雜症 子宮諸病及膣加答兒	雜症 尿道諸炎	雜症 傳染性皮膚病	雜症 膿漏性結膜炎	雜症 剝脱及其他陰部不潔病	雜症 痔疾	合計
舊患者 二十年以下												
舊患者 廿五年以上												
舊患者 三十年以下												
舊患者 三十年以上												
舊患者 小計												
新患者 二十年以下												
新患者 廿五年以下												
新患者 三十年以下												
新患者 三十年以上												
新患者 小計												
合計												
全癒出院												
有故出院												
死亡												
未治												
治療日數												

二十五年三月達甲第三十三號ヲ以テ警察官檢印ノ一欄ヲ

第六號

年　月　日

院長○檢印

醫員○檢印

監事氏名印

何々ニ付伺（照會）（報告）（通達）ノ件（或ハ願求（修補）ノ件モ同上）

醫務ニ關スル事項ニ限ル

何々ノ事由ヲ詳細記スヘシ……………可然哉

案

甲乙第何號

伺出ハ甲號ヲ付シ縣知事宛院長又ハ監事ノ氏名ニテ差出シ照會以下ハ乙號ヲ付シ某梅毒病院名ニテ差出スヘシ

第七號（用紙西ノ內紙）

割印

檢査票

明治　年　第　號

何町村遊廓內何番地

某方寄留

娼妓何某

月　日	醫員檢印	入院	退院
月　日	○		
月　日	○		

月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
入院												
	退院											
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
入院												
	退院											

明治　年　月　日

長野縣

何黴毒病院

第八號

娼妓梅毒検査票下付割印簿

下付月日	鑑札番號	貸座敷主氏名	娼妓氏名

第九號

娼妓並貸坐敷現在名簿

貸坐敷	娼妓	
鑑札番號 町村番地 貸坐敷主 貸坐敷名 氏 名	鑑札番號 娼妓（朱書） 本籍 寄留 番地 番地 氏 名 開業年月日 年齢	仝 上
仝 上	貸坐敷 合計 幾 名	娼妓 合計 幾 名

第十號

入出院簿

入院月日												
全癒出院月日												
假出院歸院月日												
直ニ貸座敷等ヘ出院月日												
滯院日數												
死去月日												
貸坐敷主氏名												
患者氏名年齢												

第十一號

娼妓異動簿

年月日	鑑札番號	事由	貸坐敷主氏名	氏名
		休業、逃亡、犯則、停業、復業、死亡、廢業、等		

○達第五十二號

梅毒病院

檢梅囑托醫心得別紙之通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス

明治二十三年三月二十日

長野縣知事 内海忠勝

（別紙）

檢梅囑托醫心得

第一條 娼妓ノ檢梅ハ梅毒性諸症及子宮口諸病子宮加多兒、膣加答兒尿道諸炎、傳染性皮膚病、其他陰部ノ剝脱幷ニ不潔病等ヲ檢診スルモノトス

第二條 檢梅ノコタル婦女子ノ最モ羞慚スヘキ情狀アルヲ以テ苟モ之ニ從事スルモノハ自カラ方正ニシテ猥褻ニ紛ハシキ行爲アルヘカラス

第三條 檢梅ノ當日ハ例刻ニ後レス檢梅所ヘ出頭スヘシ

第四條 檢梅ノ上有毒者ニハ左圖ノ如キ送證ヲ附與シ入院セシムヘシ

但患者入院ノ手續ハ取締人ニ指示シ即時該地ヲ發シ途上滯リナキ樣注意ヲ加フヘシ

入院患者送證

何町（村）遊廓内何某方

娼名 氏名

病名 何部何症

發地月日時分

右令入院候也

檢梅醫

年 月 日 氏名 印

（廿五年三月八日達甲第三十四號ヲ以テ第六條削除）
（廿五年三月八日達甲第三十四號ヲ以テ第七條但書及第八條削除）
（廿三年四月七日達第六十八號ヲ以テ本文ノ通改正）
（廿五年三月八日達甲第三十四號ヲ以テ但書削除）

第五條　娼妓ノ檢梅ニハ毎回必ス子宮鏡ヲ用フヘシ
　但病氣其他事故アリテ用井得サルトキハ此限ニアラス
第六條
第七條　定期ノ檢梅ニ於テ有毒ニシテ入院ヲ命セシモノハ其氏名ヲ當日所屬梅毒病院ヘ郵報スヘシ
　但
第八條
第九條　平素自宅ニ於テ娼妓診斷ヲ請ヒタルトキ第一條ノ諸病ニ罹リタルモノハ速ニ入院スヘキ旨勸告スヘシ
第十條　病氣其他不得止事故アルトキハ相當ノ代理者ヲ出シ檢梅ニ差支ナカラシムヘシ尤代理者ヲ出シ能サハル場合ニ於テハ前日迄ニ所屬梅毒病院ニ態飛脚ヲ以テ通知スヘシ
　但

川支降雪等ノ爲メ患者入院シ能ハサル時取扱心得

一川支又ハ降雪等ノタメ往來難相成即日入院シ克ハサルモノト認ムルトキハ警察官ノ意見ニ隨ヒ一時檢梅所ニ留メ置キ施療スルヿヲ得
一前項ノ場合ニ於テハ其事由ヲ明記セシ書面ニ警察官ノ證印ヲ得テ直ニ所屬梅毒病院ヘ郵報スヘシ斯ル場合ニ於テハ鑑札及檢査票ハ其警察署ヘ預ケ置キ往來明キ次第本病院ヘ入院ノ手續ヲナスヘシ
一患者ヲ檢梅所ニ留メ置キ治療中ハ取締人之ヲ監督シ介婦ヲシテ看護ニ從事セシムヘシ
一檢梅所ニ於テ治療スルモノアルトキハ檢梅醫ハ毎日午前九時マテニ出張シ懇々患者ノ病狀ヲ檢シ治療ヲ施スヘシ
　但本項ニ依リ要スル所ノ藥品其他治療用品ハ該醫士ニ於テ附與シ後日相當代價ヲ所屬梅毒病院ヘ請求スヘシ
一檢梅所ニ於テ治療中ノ患者全快セシトキハ檢査票ニ退院ノ印ヲ捺シ直ニ歸廓セシメ其旨所屬梅毒病院ヘ通報スヘシ
　但本項ノ場合ニ於テハ該梅毒病院ハ退院ノ手續ヲ以テ入出院證ヲ本人ニ交付スルモノトス

○長野縣達甲第四十三號

郡役所

奈良縣高市郡阪合村大字眞弓六十三番地賣藥規則外製劑營業人森田源八調製ニ係ル斃蠅散防鼠散ノ二方ニ毒物ノ配伍ヲ發見候ニ付發見禁止候趣該縣ヨリ通牒有之候條右製劑ノ請賣者有之候ハヽ禁止方取計フヘシ

明治二十五年三月十四日

長野縣知事　淺田德則

○長野縣達甲第四十四號

警察署
警察分署

奈良縣高市郡阪合村大字眞弓六十三番地賣藥規則外製劑營業人森田源八調製ニ係ル斃蠅散防鼠散

ノ二方ニ毒物ノ配伍ヲ發見候ニ付發賣禁止候趣該縣ヨリ通牒有之候條右製劑ノ行商ヲ發見候節ハ製劑ヲ棄却シ鑑札返納セシメ差出スヘシ

明治二十五年三月十四日　長野縣知事　淺田德則

郡役所

○長野縣達甲第四十六號

奈良縣高市郡越智岡村大字車木十七番地平民岡本末吉去ル二十三年二月中愛媛縣松山市大字魚町二丁目佐々木長太郎方止宿中防鼠散蠅紙ノ二方賣藥規則外藥劑トシテ發賣願出ニ付許可致候處今般其製劑中毒藥ノ配伍ヲ發見候ニ付發賣禁止候趣該縣ヨリ通牒有之候條右藥劑ノ請賣者有之候ハヽ禁止方取計フヘシ

明治二十五年三月十四日　長野縣知事　淺田德則

警察署

警察分署

○長野縣達甲第四十七號

奈良縣高市郡越智岡村大字車木十七番地平民岡本末吉去ル二十三年二月中愛媛縣松山市大字魚町二丁目佐々木長太郎方止宿中防鼠散蠅紙ノ二方賣藥規則外藥劑トシテ發賣願出ニ付許可致候處今般其製劑中毒藥ノ配伍ヲ發見候ニ付發賣禁止候趣該縣ヨリ通牒有之候條右藥劑ノ行商ヲ發見候節ハ藥劑ヲ棄却シ鑑札返納セシメ差出スヘシ

明治二十五年三月十四日　長野縣知事　淺田德則

警察署

警察分署

○長野縣達甲第九十六號

大坂府西區幸町通二丁目十五番屋敷賣藥區域外製劑營業人愛知ヌイ調製ニ係ル蚊ヤリ香ニ硫化砒亞砒酸ノ毒藥配伍シアルヲ發見候ニ付發賣禁止候趣該府廳ヨリ通牒有之候條右製劑ノ販賣者發見候節ハ禁止方取計フヘシ

明治二十五年六月七日　長野縣知事　淺田德則

郡役所

○長野縣達甲第百九十一號

大阪府下南區松屋町百九十四番屋敷飲食物着色料營業人仲谷佐平發賣之畝火紅、情銀紅、及萬年青ノ三品中砒素及有害金屬又ハピクトリヤ綠（青竹粉）等ノ有害色素混入ノ廉發見候ニ付發賣禁止候趣該府ヨリ通牒有之候條右配劑ノ請賣者有之候ハヽ禁止方取計フヘシ

明治二十五年十一月二十八日　長野縣知事　淺田德則

警察署

○長野縣達甲第二百十三號

警察分署

大阪府西成郡曾根崎村六百二十三番屋敷池田ヱイ外十一名發賣ニ係ル賣藥受賣人長崎縣長崎市麴屋町五十三番戸永島藤重今般廢業ノ處客年八月別記ノ賣子鑑札携帶行商ノ儘失踪候旨該縣ヨリ通牒有之候條右賣藥行商發見候節ハ鑑札返納セシメ差出スヘシ

明治二十五年十二月二十二日　長野縣知事　淺田德則

賣藥營業人大阪府西成郡曾崎村六百二十三番屋敷池田ヱイ受賣人長崎縣長崎市麴屋町五十三番戸永島藤重賣子　城戸駒太郎

第五十九號

一健胃散

明治二十四年七月十八日許可

賣藥營業人長崎縣長崎市船大工町本多忠左衛門受賣人同上賣子

第六十號　同　人

一葛根湯一加減人參五臟丹一サフラン湯一疝氣一服散一瀧通丸

仝年仝月仝日許可

賣藥營業人東京府東京市麴町區麴町三丁目河村謙吉受賣人同上賣子

第六十一號　同　人

一兵發命

仝年仝月仝日許可

賣藥營業人大阪府東區高麗橋二丁目百二十二番屋敷宇野幸次郎受賣人同上賣子

第六十四號　同　人

一サツチール水

仝年仝月仝日許可

賣藥營業人京都府京都市馬場通六角下ル寺町上尾庄兵衛受賣人同上

第六十五號　同　人

一御目洗藥　一無二膏

仝年仝月仝日許可

賣藥營業人岐阜縣厚見郡東加納町四丁目三番屋敷中村平八受賣人同上賣子

第六十六號　同　人

一根切藥

仝年仝月仝日許可

賣藥營業人大阪府大阪市東區伏見町二丁目二十五番屋敷谷新助受賣人同上賣子

第七十八號　同　人

一健胃固腸丸一健胃下服丸

仝年仝月仝日許可

賣藥營業人大阪府大阪市東區平野町三丁目七番屋敷喜多村藤兵衛受賣人同上賣子

第六十九號　同　人

一賓丹

仝年仝月仝日許可

賣藥營業人大阪府大阪市南區大寶寺町中ノ町二百十六番屋敷北村太次郎受賣人同上賣子

第七十號　同　人

一延命惘丸一ツキ藥一神力散一日出目藥

一井上精錡水一改良セメンエン

全年全月全日許可

賣藥營業人同上受賣人同上

第七十一號　賣子　同　人

一壹服散一齒藥一月ヤク丸

全年全月全日許可

賣藥營業人大阪府大阪市東區北濱四丁目四十一番屋敷安東久次郎受賣人同上

第七十三號　賣子　同　人

一鳩麥飴　一白色鎮痛液

全年全月全日許可

賣藥營業人奈良縣大和國添上郡奈良橋本町二十五番地柳生庄藏受賣人同上

第六十七號　賣子　同　人

一結品沃度加里

全年全月全日許可

賣藥營業人大阪府大阪市堂島船大工町二十七番屋敷高橋卯之助受賣人同上

第七十六號　賣子　同　人

一保壽丹

全年全月全日許可

警察署

警察分署

○長野縣達甲第二百十六號

岡山縣岡山市大字船着町七十番地寄留賣藥規則外藥劑營業人藤本常次郎調劑ニ係ル蠅紙ニ毒物ノ配伍ヲ發見候ニ付發賣禁示候趣該縣ヨリ通牒有之候條右製劑ノ請賣行商者發見候節ハ製劑棄ヲ却シ鑑札返納セシメ差出スヘシ

明治二十五年十二月二十三日

長野縣知事　淺田德則

○告示第六十六號

內務省特許醫學校生徒ニシテ本年六月全省告示第五號ニ相當スル者ニシテ元該校所轄地方廳ノ證明書アルモノハ今後ノ醫術開業試驗ニ直ニ後期試驗ヲ受クルコトヲ得

但出願手續ハ一般試驗願ノ例ニ據ルヘシ

明治二十一年八月二十二日

長野縣知事　木梨精一郎

○告示第十四號

明治二十二年三月法律第十號ニ依リ藥品監視員巡視ノ際携帶スヘキ證票左ノ通相定ム

明治二十三年三月十一日　　　長野縣知事　内海忠勝

表

薬品監視員之證

裏

長野縣 廳印

○長野縣告示第十八號

本年四月ヨリ左ノ箇所ニ梅毒病院分院ヲ設置ス

明治二十四年三月二十三日　　　長野縣知事　内海忠勝

郡名	分院位置	分院名稱
下高井郡	平穏村	長野梅毒病院平穏分院
北佐久郡	岩村田町	上田梅毒病院岩村田分院
諏訪郡	上諏訪村	松本梅毒病院諏訪分院

○長野縣告示第二十五號

　　　　　　　　　　　　小縣郡上田町
阿片賣買特許藥舖　　　　内藤源次郎

右今般廢業ノ旨屆出タリ

明治二十四年四月十八日　　長野縣知事淺田德則代理
　　　　　　　　　　　　長野縣書記官　小野田元熈

麻疹ハ一種ノ傳染性熱病ニシテ流行ノ時ニ隨ヒ良性ナルアリ惡性ナルアリ良性麻疹ノ流行ハ敢テ危懼スヘキ疾病ニアラサル如ト雖モ該病ニ罹ルモノハ多少眼及呼吸器ヲ侵シ加之消化機ヲ衰弱セシムルヲ以テ初メ輕症ナルモ病中病後ノ不攝生ニヨリ不治ノ餘症ヲ續發スル者其例少ナカラス目下流行ノ麻疹ハ幸ニシテ惡性ナラサルモ單ニ病症ノ輕易ナルニ安シ醫療攝生ニ注意セサルトキハ終ニ不治ノ疾患ヲ誘起スル者有之哉モ難計ニ付別紙心得書ヲ發布ス宜シク此書ニ就キ治療攝生ニ怠リナキ樣精々注意スヘシ此旨諭達候事

明治十八年四月二十三日　　長野縣令　木梨精一郎

麻疹患者心得書

一　麻疹病の初期は感冒に似たるものなれは少しも感冒の氣味ある時は直に醫師の治療を受くべし

二　病人の寢室は清潔温暖なるをよしとすれとも强き光線に觸るゝはよろしからす且衣服寢具

も適宜着用して靜に臥さしめ凝冷を避るは最も肝要なり併しなから窓戸を密閉し空氣の流通を妨け又た身體の温保に過るも宜しからす

三 本病は輕症なるも胃腸を衰弱するものなれは食物に能々注意し體力の復舊せさる間は粥汁牛乳肉羹汁半熟鷄卵等の消化し易き滋養の食物を少しつゝ與へ必らす病人の意に任せて多く與ふべからす

四 落屑後二週日の間は他の病氣に罹り易き時なれは最も愼みて治療養生に怠りなく平常虚弱なるもの咳嗽止まらざるもの食氣進ます衰弱の徴あるものは二週後も尚は養生して醫師の治療を加ふべし

五 落屑後二週の間は身體の疲勞する時なれは充分安眠せしめ晴朗温暖の日には窓戸を開き空氣を交換し適宜に散歩せしめ落屑後瘙痒に堪へざるときは入浴して可なり然れとも浴後は直に臥さしめ寒風に觸れさる樣注意すへし

六 病後體力復舊せさる間は右の法を行ひ聊たりとも身體に勝れざる所あらは速に醫師の治療を請ひ決して等閑にすべからす

○告諭第九號

縊溺ノ爲メ死ニ至ラントスルモノヽ中或ハ救急法ヲ識ラサルヨリ遂ニ其非命ニ陷ラシムルノ不幸ヲ見ル尠カラス依テ別冊救急法ヲ相設ケ候條危急ノ場合醫師ノ治療ニ先チ何人ニテモ右方法ニ由リ救護方注意スヘシ

明治二十年十二月二十五日

長野縣知事 木梨精一郎

絞縊者の手當

絞縊者は神速に其縊繩を切斷するを簡要とす然れともこれを切斷するに當り縊者を地上に顛落し爲に身體に損傷を受けしむる等の事なき樣注意し其方法は先つ縊者を確と抱持して即時に縊繩より卸し空氣流通の宜き閑室に仰臥せしめ若し衣帶等にて身體を緊紮したるものあるときは之を解き裕め鳥羽或は束紙を以て口鼻の中の粘液を拭ひ取り冷水を布巾に醮して頭額を冷し又は寒水灌注法を行なひて熱酢或は「安母尼亞精」(藥名)等を嗅がしむるを宜しとす又頸部の脈管怒張して顔面紫赤色に變せし者あるときは耳後に水蛭を八九條づゝ貼して射血すべし然後次に揭ぐる人工呼吸法を施すべし且其法を行ふに當ては必用の人の外はなるべく群集を禁すべし

溺水者の手當

溺者を水中より拯ひ上ぐれば直に其衣服を脱して裸體となし乾布を以て全身を摩擦し口鼻の中の粘液及泥石泡砂等の汚穢物あらば之を除き取り自然の呼吸に障碍なき樣注意し然して先褥或

は衣服の上に俯臥せしめ腭を頭額の下に置き稍々頭部は身體より低からしむ然るときは口中に集溜せる液は勿論吸入せし水を吐出すべし斯くの如くするは二三分時間に過ぐべからず其水を吐出せば毛布若しくは温和なる衣類を以て身體を被包し蓐上或は藁上に仰臥せしめ稍々頭部及胸部を高くし氣管中に自由に空氣を進入せしむるため口を開き布片を以て舌を包み牽出し然して蒸酢又は「安母尼亞精」(藥名)を嗅しめ胸部及び顔面を適宜に摩擦し微温湯冷水を交々噴注し又濕したる布片を以て烈しく胸部を打撃すへし斯の如くするも自然と呼吸を發せざるときは次に掲る人工呼吸法を施し衣類の上より間斷なく四肢を徐々に摩擦し又温湯を壜に入れ之を抱かせ温暖なる蒲團に包みて身體を温まらすべし

右の法を行ふには空氣流通宜き閑室に於て介抱人の外群集を禁ずべし

人工にて呼吸をさする法

先つその人を平に仰臥せしめ頭部胸部は集束したる衣服の類を以て稍々少しく高擧し兩方の肘の上を握りて靜に其手を頭部の上に引きあげ玆に保持すること二秒時間又その手を取り引きさげ胸部の兩側に程よく壓し附け又保持すること二秒時間置きて再ひ手を頭部の上に引きあけ又前の如く引きさげ斯くの如く靜に注意して兩手をあげさげすること一分時間に凡そ十五六回反覆するを要す假令數時間に至るも眞の死徴を現する迄は決して休止すべからす其間最も耐忍すへし既に自然の呼吸を發起するを認知せは即時此法を止め血液循環及體温の快復するため乾きたる蒲團を以て被包し四肢を下方より上方に衣服の上より摩擦すへし然る後温湯を入れたる壜或は暖めたる石瓦の類を布片に包み胃窩腋窩股間及び足蹠に抱かしめ然して生命を挽回せば少量の「温茶」「コーヒー」「葡萄酒」等の類を交々與ふべし

右は何れも急場の手當にして決して之を以て醫師の代とすべきものに非ざれば取り敢へす其手當をなすに先つて速に醫師を招きて療治を受くべきなり

前條々の手當行屆かず全く死に至たりるときは勿論其他異狀の徴痕ある場合は其筋の檢視を受けねばならぬものなれば其現場の形狀はなるべく現體を存し檢視の資料に供すべし尚ほ用具等は散亂せざる樣注意するを要す

○スノ部　水火災建築

○縣令第二十四號

火工塲取締規則別紙之通相定ム

但從前設ケアル火工塲ニシテ本則ニ牴觸スルモノハ本年十月三十一日限リ改造若クハ修補ヲ加ヘ所轄縣察署又ハ警察分署ヘ屆出檢査ヲ受クヘシ

明治二十三年四月十二日　長野縣知事　內海忠勝

火工塲取締規則

第一條　本則ハ鍛冶鑄物及ヒ硝子器火工塲ニ適用ス

第二條　前條工塲ヲ新設セントスルモノハ本則第三條第四條ニ從ヒ其構造ノ方法ヲ記シ鑑ヲ備フルモノハ隣接屋主ノ承諾書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ警察分署ヘ屆出落成ノ上ハ檢査ヲ受クヘシ改造修繕ノ時亦同シ

第三條　火工塲ノ竈火焚塲烟筒（﨑ナ設ケサル烟出シモ包含ス）ハ石又ハ煉化石其他不燃質物ヲ以テ堅牢ニ築造スヘシ

第四條　烟筒ハ屋上ヘ三尺以上突出セシメ其周圍ハ燃質物ニ接近セシメサル樣裝置シ每月一回以上掃除スヘシ但掃除期日ハ豫メ所轄警察署又ハ警察分署ヘ屆置クヘシ

第五條　火工塲內火氣達シ易キ塲所ニハ其時々使用スルモノヽ外他ノ燃質物ヲ置クヘカラス

第六條　火工塲及ヒ烟筒ノ構造烟筒ノ尺度不適當ノモノアルトキハ改造修補セシムルコトアルヘ

シ

第七條　烈風ノ時特ニ危險ノ虞アルモノハ一時焚火ヲ停止セシムルコトアルヘシ

第八條　本則第二條第三條ニ違背シ及ヒ第四條第五條第六條第七條ニ違背シ命ニ從ハサルモノハ本縣違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

○訓令第四十六號

警察本部
郡役所
警察署
警察分署
町村役場

町村ニ於テ火災水害ノ警防ヲ周到ナラシムルカ爲メ消防組水防組ヲ設置シ其組織等ハ條例トシテ規定スルヲ得ヘシト雖モ水火災ニ關スル事項ハ警察官ノ職權ナルヲ以テ町村ノ設立ニ係ル消防組水防組ト雖モ所轄警察官ノ監督ニ關シ尚ホ警察官臨場ノ際ニ在リテハ其指揮ヲ受クヘキモノト心得ラルヘシ

明治二十三年三月二十七日　長野縣知事　內海忠勝

○告示第百二十號

火災警鐘ノ點數ヲ定ムル左ノ如シ

一自町村若クハ其接續ノ町村ハ亂點

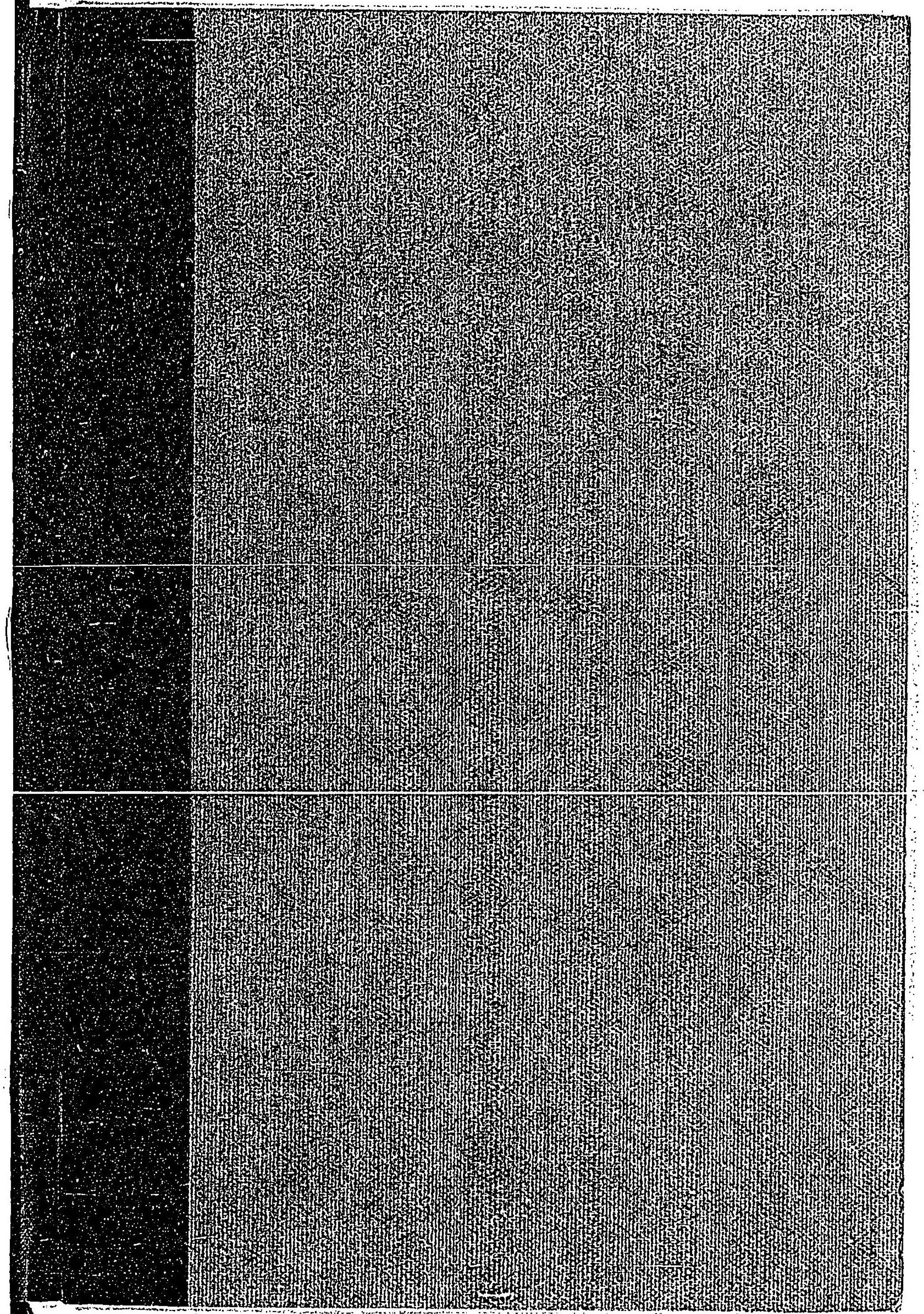
一他町村ハ二點ツヽ

一鎮火ハ一點ツヽ

明治二十年十月二十九日　長野縣知事　木梨精一郎

長野縣現行令達類聚中卷終

シシ3ム允



300300-000-1

CZ-1113-55

長野県現行令達類聚　中巻

長野県

1893

BBD-0031